

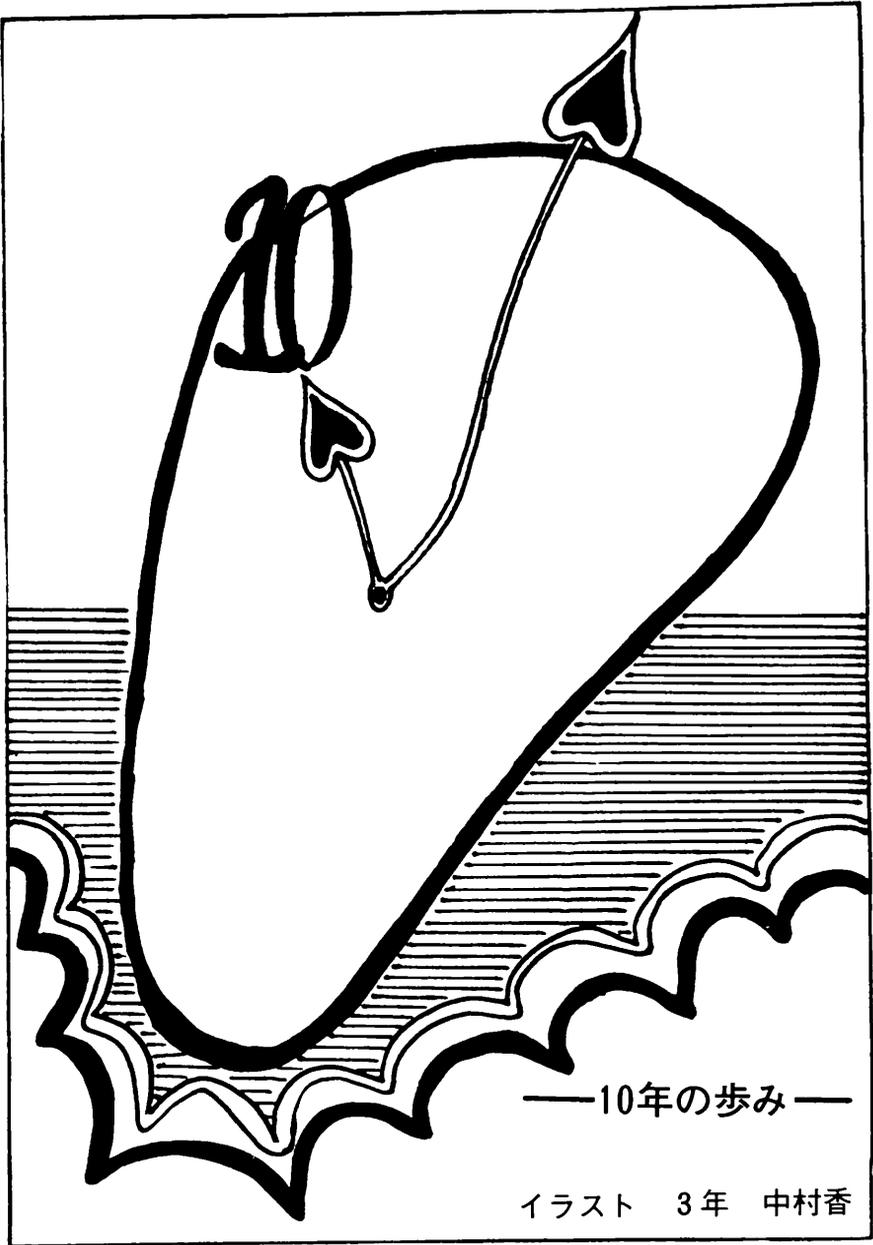
五稜

1972

11



函館市立五稜中学校生徒会



—10年の歩み—

イラスト 3年 中村香



目次

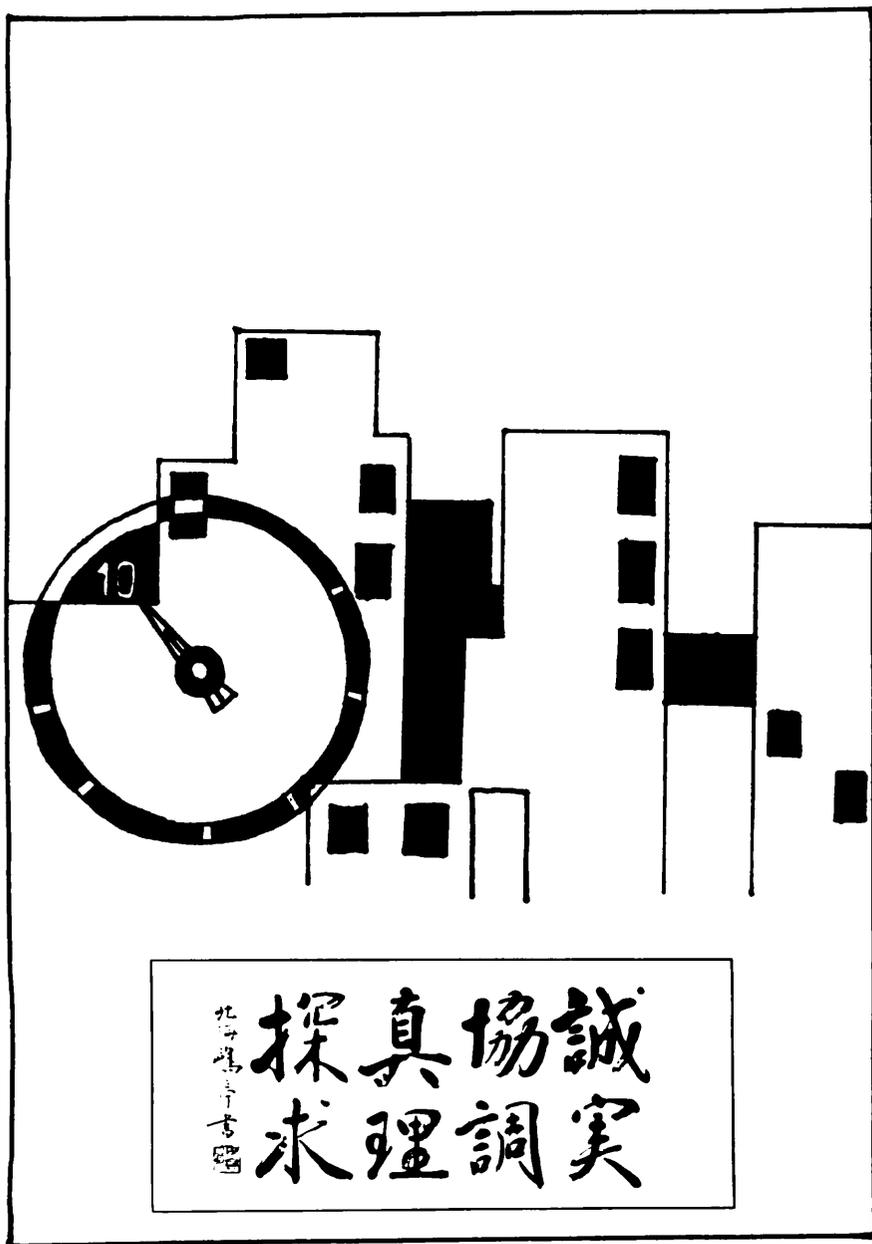
校訓に学ぶ……………	生徒会会長……………	1
校訓に思う……………	学 校 長……………	2
私たちの生徒会……………		4
特集 われらあし跡の記……………		8
特集 この十年を顧みて……………		15
特集 学園五稜の十年を語る……………		26
特集 私たちの仲間から全道大会へ……………		39





学級プロフィール	49
職員室コーナー	68
クラブの歩み	
文化部	77
体育部	83
私たちの研究発表	90
五稜中生のマスコミ感度は	95
図書館だより	99
文芸	107
修学旅行	114
卒業―あすへの歩み	120
編集後記	131





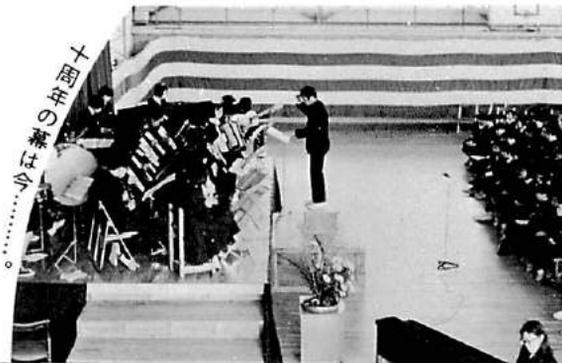
誠實 協理 求真 探求
北海書畫社

祝 創 立 十 周 年

伸 び ゆ く わ れ ら

今 こ こ に





十周年の幕は今……



夜明の女。演劇の中心。演劇だ。



さすが先生だ。……さびしいはげみ

君たちはこの学校に学んで来た卒業生

わせた……PTA。

ファンファーレは
高らかに

さすが先生だ。

出

発



諸君、よく聞け。われわれはだな——終り



可愛子ちゃん、ようこそ。今の気持ちを
大切に。いいね。



ヒデとお馬。いやちがった。ご挨拶です。
よろしく。



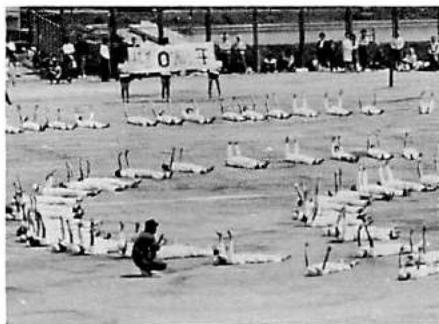
新緑が目にもじみる。グイーどいっぱい
ああ、うまいね。



毎日遠足ならいいのに。無理よ。



アーン。君むし歯多いね。[頭は]
「大丈夫です」ご心配なく。はい、次。



おててをブラブラ…。はい、できました。



協調の花だーア。



根性／忍耐！

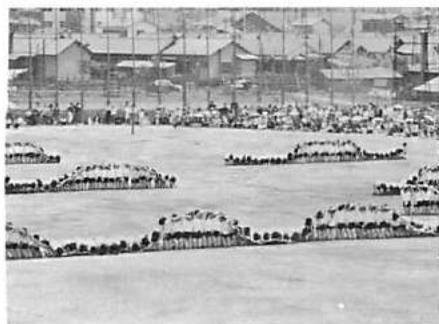


健闘むなしく。

躍
動

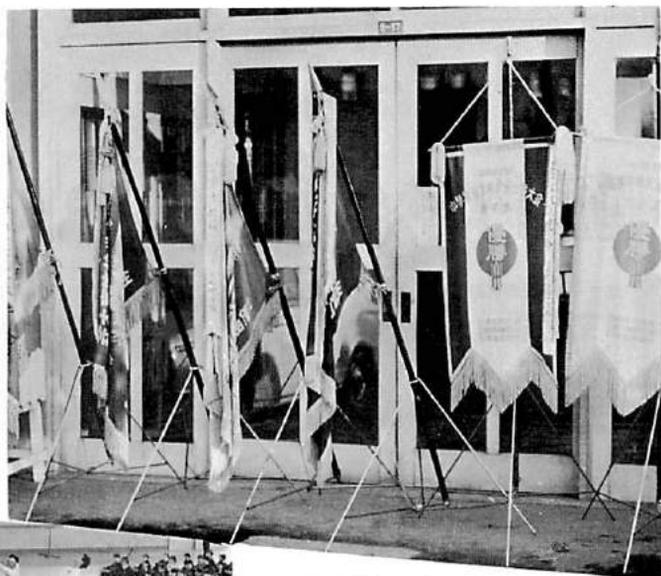
波みたい。波ですもの。馬鹿みたい。

ピーツ。必死！うーん。



爆

発



輝く優勝旗。6本でアルぞ。

それっ元気よく。もっと大きな声で一。
五稜。五稜。五稜。



やったぜ！男子初優勝。ギャオ！



栄冠涙あり！全道大会出場決定。あぁ
うんうん



栄光の道！これぞ伝統……！



堂々！男女総合優勝。個人全道大会出場

見事なデッサン。
「上手ね」と感心す
ることしきり。



本番3秒前。
プロ顔負けのGHKスタッフ。



結 実



のみしらみ馬の尿する枕元？
登山同好会



ラーメン一番のり。おいちよーン。
母の会食堂



何でも100円早いものがちよ。
このお金はぼくらのために…。母の会バザー



ヒヤーツ。似てる。見て見て見て！
名物学級プロフィール。

校訓に学ぶ

生徒会長 鶴川 快



「誠実、協調、真理探求」よい校訓だ。誠実とは他人に対しては勿論のこと、それ以上に自分の心に忠実であれということだと思う。ぼくたちは友や親や先生に嘘をつくことはできるが、自分の心にはできない。そうすることが自分をどんなに

怠惰な人間にするかは明らかだ。次に、協調とは通りいっぺんの表面的な形式的なおつきあいをさすのではなく人間の心と心のふれあいから生じる本当の意味での人間関係をさすのだろう。最後に、真理探求。ぼくの最も好きなことばだ。学問はこれでいいということはない。われわれには、私たちの先祖が究明してきた文化遺産を正しく継承し、発展させていく義務が課せられていると思う。人類の文化を発展させる基盤をなすものはわれわれが日常学んでいる勉強である。十周年の式典を契機にわが母校、五稜中学校の校訓を正しく見つめ直し、みんなの手で力でさらにすばらしい五稜中学校に飛躍させようではないか。



私たちは科学の長足の進歩に伴いすばらしい恩恵を受けながら生活しています。函館空港にもジェット機が乗り入れられ、青函トンネルも本工事に着手しました。夢の超特急が姿を見せるのも時間の問題となりました。家庭の調度品や作業機器も見ちがえる程立派に便利になっているし、商店には目をみはるような美しいもの、使いよい品物があふれる程にならばられています。しかしその中で私たちの生活はほんとうに楽しいものになっているのでしょうか。歩道を歩くにも戦々恐々、たえず周囲に気を配っていなければならぬし、かつて美しかった山も川も海もよごされ破壊されています。そのほか薬品による害も大きくなってきました。

最近では衣料品による害も話題にのぼっています。また私たちが日常買う品物について危険商品の如何に多いことか。このように日常私たちのまわりに楽しさをむしばむような悪い現象が山積してきています。原因は何なのでしょう。私たちはお互に真剣に考えなければならぬ問題だと思います。私はこれら大小さまざまな都合の出る原因として二つのことを考えます。一つはそのことについての知識

校訓に思う

学校長 梶原四郎

の不足です。現代のように科学の進歩の著しい時代では自分のところで扱っている数少ない商品についても深い知識をもつということは困難なことでしょうし、科学が限りなく分化していく中で一つの商品や作業について総合的な知識を身につけることも困難な問題かもしれません。もう一つは激しい競争の社会の中では製品とその作業過程について自分に都合のよい点にのみ目を奪われ、その短所が他にどんな影響を与えるかを考える暇すら与えないところにあるように思われます。総ての人が自分の家族に対する愛情の何分の一かを隣人に向けたとしたら、少しでも隣人の身になって考えてみることをしたならば自分の扱う商品や作業過程に関連しての知識を大きく吸収することができるだろうし、今まであげてきたような悪現象のほとんどは発生させないですんだように思われるのです。(日本の科学はこれらの公害が予測できない程低いものではないのですから)またこれからもその発生を大きく食い止めることができると思うのです。本校が早くから「誠実」を校訓の第一に掲げて人格の完成に努めてきたことについて先輩諸先生方の先見の明に頭の下る思いがします生徒のみなさん、これからの社会で最も求められる「誠実な人」になるよう心がけてください。諸君の将来の生活を楽しいものとするために。

真理を求めて活躍する

わたしたちの生徒会

1971 → 1972

一年間は実にいそがしかった。

「立派な生徒会」「活発な生徒

会」と人間の欲望は尽きること

を知らないが、同じ希望を持つ

た七人が力をあわせ、たとえ一

歩でも理想に近づこうと努力し

た。そうでなければならなかつ

たのだ。学校という所は……

……



46年度

生徒会活動報告

総務局

役員選挙、生徒総会、修学旅行、運動会、中体連、文化祭、生徒会誌編集等、とにかくとび廻った。いつもの年より、先生中心から生徒中心に移って行った様に思われるが、きめの細かな計画性にやや欠けていた。委員会活動の面では、出席状態が悪く、もっと委員としての自覚と責任がほしかった。最後にみなさんのご協力に感謝します。

新聞局

「今私はみなさんによみがえった。そよ風」を頭に浮かべていたかったです。「なん



新聞局長 永田 潮

だ、新聞のことか」と思う人もいるでしょうね。でも、たった一枚のささやかなものではあるけれどあの中には私たちの心の叫び、訴え、そして夢があるのです。新聞を作る時、いえ、ものを作り上げる時は全てテーマに初まるのです。この新聞によって私たちは今、みなさんに何を語りかけようとしているのかしばしば考え直すこともありました。多くの障害が私たちのいわんとする事を邪魔するのです。時には、全然関係がなくなるようなこととさえあった位です。でも私たちは、新聞の中に心をこめようとしてきました。ですからどんなにつらくても仕事を続けてきたのです



放送局長 今野 郁子

「仕事は終わり、新聞は遂に完成しました私たちにとって、そよ風」は、青春の一場面を創造した貴重な存在であったのです。

放送局

私にとって、あまりにも早く、過ぎ去ってしまった二年間の日々。心を探り、問うた世界に別れを告げる頃がもうやってきたなんて……この原稿を手に取り そんなことをしみじみ思う私……黙っているとなげかに悲しく、じっとしていると無性にわびしい そんな気がしてふと――

遠い昔をさまよい歩くのでした

そこには、働くことに喜びを感じ

必死になって取り組む 私たちの姿が… 仕事に夢を見つけ 真剣になって創作する

私たちの顔が…… あふれていました
その中で 真心の暖かさを

心のつながりの尊さを
私は知ったのです

人間らしい交わりに 心を動かし
人間らしい生き方に 心はずませ

いつでも どんな時でも

助け合うことを忘れずに

今日まで続けてきたこの仕事!!

これが単なる想い出として

消え去ってほしくない……

いつまでもこの仕事で学び得た事が、自分自身
の心の中に生き続けていることを私は願う
のです

永遠の炎として

文化部



文化部長

石井 辰男

今年十周年を迎え、華やかに活動しました。文化祭の連絡、準備を運営していくのは

文化部でした。それに地味ではありますが、毎週金曜日に行なう校内掲示。ペールマークの得点調べ等でした。反省としては計画性という点で今少しの感でした。このようにぼくたちなりにすべきことはやったつもりですが、専門委員会、生徒会との関係で秘密さという点も今後考えていかなければならないと思います。

図書部



図書委員長

松村 朋子

貸し出しがふえたことと、昼休みの閲覧がふえたこと、それに調べものに来る人があること。以上が良いこと。

一年を通じて悪かったことは、本の返し方が遅いという点。それほど本を読みたいのならいんだけど、ひよっとしたらみなさんの家の机の上に寝ているのでは？ それに本の取り扱いをもっといいねいにして下さい。

来年は放課後も、もっと利用してほしいこ

とを希望します。また、読書会など、もっと気楽に何回も開きたいですね。

厚生部



厚生委員長

熊谷 敏夫

厚生部の前期の反省と後期注意しなければならぬ点として、第一に私たち厚生委員のことで男女の協力がたらない。申し込みの時の数字がきたない。第二にみなさんのことではパンのとりかたが悪い。個人ではパンを買えませんが絶対に行かないように万が一、弁当を忘れたり、申し込むのを忘れたときは、先生といっしょに買いに行くようにしてください。

以上のことを後期に注意していきたいと思

整 美 部



整美委員長

小林 道夫

プールのわきに木が立っている。また、三年の方の校舎の軒下にレンガがならべて、うめてある。これは、われわれが一年の時にやった仕事である。今の整美委員の仕事は、運動会前に塩化カルシウムをまいたり、そのあとしまつをすることと、整美部本来のそうじに関する事ぐらいで、前にくらべると、たいへん仕事の量が少ないので委員自体も、いっしょうけんめいやってほしいし、委員以外の人も、縁の下の力持ちである委員を助け、協力してやってほしいと思う。

生活部



生活委員長

中村 武文

今年の活動をふり返ってみると、いろいろ

なことが問題としてあげられました。しかしそれらはいずれも全校生徒の協力によって改善されるものばかりでした。要するに、生活部は全校生徒の協力がなければならたないのです。生活部の最終目標はなにか。それは「伝染」をなくすることです。

保健部



保健委員長

金子 寿子

保健体育委員の仕事には、運動などの「体育」という仕事と、健康などの「保健」という二つの仕事があります。この二つの仕事は非常に広い範囲で行動しなければなりません。その例を上げてみると、校内では、水泳大会陸上競技大会など、校外では遠足・中体連などです。その他、保健体育委員はいろいろな行事をみなさんが楽しく過ごすことができるように努力してきました。ですから、後輩諸君もまけないように努力し、今までより、いっそう明るく活発に、私たちのできなかつた

ことを自発的に、積極的にやり、この保健体育部をほんとうによいものにしてください。

応援団



応援団長

滝下 栄次

「オールメン ハクシユ」という声で応援をして三年め。やっぱり三年めがおもしろく、たのしくやれた。先生方は「たよりない」と言うが、先生がだまっていたらもうよかった。今年がよかった。でも、団員不足でこまった。今年三年生が二人、二年生も二年とうしてやったものはいない。でもよくやったね。深堀中から走ったこともあった。応援のほうはつかれてさっぱり。今年ほど忙がしいこととはなかったね。来年はだれがはいってきてもいいから、どうせやる気があるなら三年間やれ。最後に応援団にハクシユを。

生徒会への提言

投函記事から

生徒の手で

三年B組 郷 久 由美子



育の人と、おしの人があります。二人が、一つの家で生活するとします。当然、二人は一体となり、協力し合わねばなりませんけれど、一人だけの力では足りません。やはり、一心同体ということが欠かせないのです。私は、生徒会活動にも同じことがいえると思うのです。生徒と総務―立場は、多少違っても、目的は、常に同じです。そして今年の生徒会役員も、その目的のために、彼なりに、やってきてくれました。数々のアンケート、二回に渡る生徒総会、文化祭など；私は、その努力を認めたいと思います。しかし、生徒の中には、まだ、無責任な人も多いようです。今後は、今までの経験を生かし生徒の手で、より良い学校生活を築きたいものです。

一人の小さな力が

三年F組 阪本和子

私は、この四月本州から函館へ移ってきました。ですから五稜中の生徒会活動はみなさんの何分の一しか知らないわけです。そこで、私なりに感じたことを述べたいと思います。まず驚いたのは、九月



に行なわれた生徒総会のことです。議題が身近なものだったためでしょう。あれだけ意見が活発にでるといふことは嬉しいと思います。しかし、生徒会員一人一人自覚が足りないのではないのでしょうか。アンケート調査の時等たかが一人くらいやらなくてもよいというような無責任が見られるようです。一人の小さな力が五稜中生徒会を向上させる源動力となることを忘れてはならないと思います。

新生徒会長の抱負

南部貴昭



毎年、立ちあい演説の時に「生徒と生徒会とのみぞをなくすとか、今の総務は『なっていないとか』かっこうのよいことが話されますがそれは、当選するためのきれいに過ぎないのです。

実際の五稜の生徒会をみてください。これほど活発な生徒会があったでしょうか。生徒会とのみぞがあるとすればそれは私たちがつくったのです。ぼくは今年の生徒会のように活動的に全力しつ走って行きたいと思いますが、みなさんも自分たちの生徒会だという気持ちでぼくたちに協力してください。今、当選したばかりですのでまとまりがありませんががんばろう。11月27日記

特集

われら

あし跡

の記

一年間の行事は走馬燈のように……何事もなかったように過ぎ去った。しかし、表面何事もなかったような一つ一つの行事の中に、自分にとっては忘れることのできないさまざまな思い出がぎざみこまれている。われらのあし跡をここに綴ってみよう。



四月

五日 新任先生の紹介

村田・泉・大平の各先生ようこそ。生徒はいたって優秀です。どうぞよろしく。どんな先生か早く知りたいネ。
始業式（二、三年のみ）

二年生は学級解体。新任発表で心もそわそわ。ああ、どうかあのスマートなA先生でありますように。現実はこちらが。とかくきびしいのでございます。

教科書配布・時間割発表

何でも新しいものはいい。教科書もそうだ。さあ、今日から勉強。その意気、その意気。

六日 入学式

まあ、かわいい。こっち向いて。星の王子様みんなお利口そう。はい、チョコレート。お家へ帰ってから食べるのよ。

十一日 対面式

新入生と在校生の初顔合わせ。お互いにどうぞよろしく。「すげえなあ、三年生の女生徒って……」新入生の第一声（廊下で録音ス。）

生徒会役員活動

本日より本番。さあ、いこうぜ。最後まで、最後までだよ。全校朝会が生徒会の運営によって行なわれる。

一九日 クラブ編成、活動開始

中学校生活の華。「これだけを楽しみに学校へ来るものあり」。非行対策よりクラブ予算ふやせ！

この月から六月までなんのканのと諸検査続く。体重・身長はもちろんバスト・ヒップあらゆることが気になる。年頃です。

五月

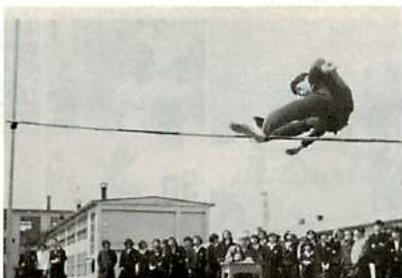
一二日 実力テスト始まる

テストの記事なんか読みたくなえ。そういうなよ。お義理で書くこともあるんだ。以下のせるけどゆるせ。

一八日 生徒総会

生徒の生徒による生徒のための生徒会。総務ははりきったけど反応はなし。まだまだ五稜の生徒はだめだね。問題意識に欠けている。「今私は、このまま終わっていいのかしら、





という疑問が残っています。そうこなくちゃ。

（ある女生徒の弁。）

知能テスト（三年生のみ）

またテストか。でも結果発表なし。気にしない、気にしない。

二二日 校内陸上競技大会

はれ、のちくもりついに大雨。風もつめたし。そのせいか好記録は生まれず。残念だなあ——岡本先生。

三〇日 創立十周年記念体育祭

名物百足競走。各馬いっせいにスタート、コータローおくられています……。次はマイフレンド。私のパートナーだれかしら？でも、あつという間だった。コースを長くすればいいのに……。先生がた、もっと心理学の勉強をしたら。「来年から陸上形式に」。ちえっ解っちゃいない。

六月

三、四日 中間テスト

八日 修学旅行出発——十一日まで

バスでハイウエーを。いや、ソロバン道路を。



いいかげんげんなり。しかも、乗り物にのつてい

る時は晴れで降りると雨。ああいやになっちゃう。でも、夜があるぞ。宿に着いたら……。

カメラナリが落ちなければやはり修学旅行はいのになあ。明日から要領を本分とすべし。

二三日 中体連陸上競技大会

いよいよおいでだ。伝統ある五稜の陸上、陸の王者五稜ノゴリョウウノゴリョウウノ声援むなくみんなピリケツだ。どうしたんだろう五稜「はらくだりだきつと」冗談言ってる時じゃない。「根性がないな」。「来年こそ、がんばるぞ」。「もう卒業だろ」よーし八種の中体連に。もっと早く気がつけ。



七月

六、七日 期末テスト

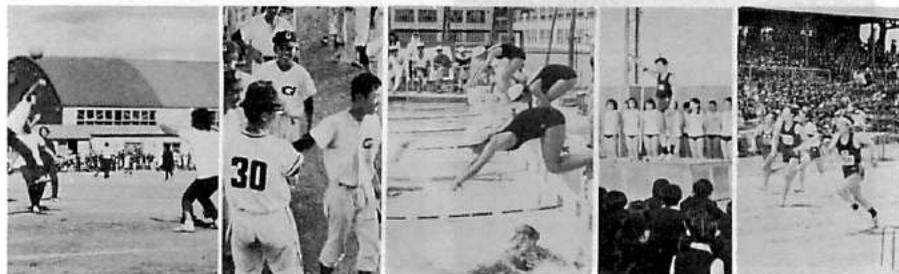
どうだっいい、中体連だ。

一九日 中体連八種競技大会

体操男女優勝さすが。卓球男子準優勝、練習だね。その他いろいろ。野球部よ授業時間

間の確保なんて関係ない、関係ない。声援

にこたえてみごと優勝。メダタシメダタシ。



二四日 終業式

ハイ、お休み。パンサーイ。宿題忘れるなよ。休み帳なんか廃止だ。

二五日 放送水泳

男・女優勝。わずか6校だろう。6校だって3校だって優勝は優勝だあーい。そうだ、そうだ本当にそうだ。

八月

二日 道南野球選手権大会

夢にまで見た甲子園でなかった、全道大会出場決定。

「栄冠涙あり」札幌だよーん。それにしても五稜の生徒応援にも来ないで受験勉強なの。まさか。そんなの落ちるよ。

二日 全道中学校野球大会

芽室中には勝った。留萌には敗けた。勝ちたかった。終わってからそう思った。すみません。ぼくの青春詩を読んで……。

一九日 始業式

もう学校か。行きたくないな。小学生みたい。勉強はまーだ。水泳大会があったつけ。いけ

ねえ、俺は泳げなかった。

二五日 校内水泳大会

顔だけまっ黒だ。25メートルがやっと。苦しい助けて。

二七日 中体連水泳大会

放送水泳で泳ぎすぎた。〇〇先生ブルーサイドで寝てるもーん。疲れたんだね、きつと。私たちも。

九月

一四日 遠足

天高く馬肥ゆる秋。秋晴れのもとで遠足だよーん。景色なんか……それより食べるぞー。あつ俺のにぎり飯がねえ。

一五日 N H K 音楽コンクール

音楽でも中間部はさらっと流すでしょう。紙数が不足しそうなので来年こそがんばってー。校内球技大会

二四日

ずいぶんエネルギーを発散させました。「結果より過程がタイセツよ」やっぱり優勝だーい。けちゃん。

二八日 全市の理科作品展、発明工夫展



昨年に引き続き学校賞受賞。俺たちたいへんだったぞ。
生徒総会

前回より充実した。休み帳必死だったよ。こういう切実なのがやはりいいのかな……。

十月

四日 後期専門委員任命式

誰だ、さぼってばかりいるの。バッチをかえせ。かえすよ。何と申しましょうか……。

一六

一七日 創立十周年記念式典、文化祭

「伸びゆくわれら今ここに」 だけど長かったなあ……。文化祭は楽しかった。ジュニアア喫茶いい感じでした。

十一月

五、六日 中間テスト

その後、ほとんど校内行事なし。お勉強、お

勉強、またお勉強。読書の秋、お陰様でずいぶん本読んだ。

「つまさきでのびあがった裸の踊子の清らかな姿が一生忘れられない」「お前早熟だな」「どういたしまして」「国語の先生はいいました。

「本読め」「本読め」って。その影響大なり。もう遅すぎた。

二七日 生徒会役員選挙投票日

定員七名に対して、立候補20名。衆議院を上回る競争率。将来文部大臣になって先生がたを……。

十二月

七、八日 期末テスト

二四日 終業式

クリスマス、もういくつ寝るとお正月、お正月には……楽しい冬休み。通知せんがなければ言うことなし。これも廃止にしよう。風邪ひくなよ。



一月

一九日 始業式

今年ががんばるぞ。いつもそうだ。三日坊主。

二七日 冬期遠足

生徒の事故ゼロ。大沼に片足をつっこんだ先生がおられたとか……。

二十八日 中体連スキー大会

「滑れ、滑れ、もっと早く。」「イヤな事言うなよ、俺三年生だよ。でも、ヤマラレナイナー、銀世界でのこのフリーリング。」

二月

九、十日 期末テスト(三年生)

実力テスト(一、二年生)

ついに来るべきものがきた。テスト、テスト。明けても暮れてもテスト。灰色の青春だね。

三月

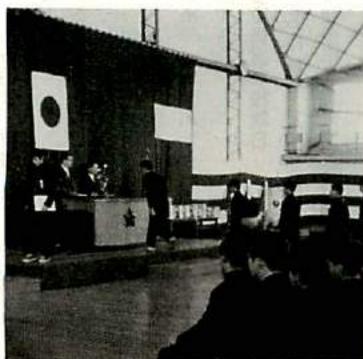
七、八日 期末テスト(一、二年生)

公立高入試

神さま、仏さま。いわしの頭でも、ボラのへそでもなんでも祈りたくなる心境。生徒会の仕事やりすぎた。

一五日 卒業式

生徒会雑誌五校をもらって。はい、さようなら。あつ、卒業証書を机の中に……。落ちたもの、落としたもの多々あると思います。ゆるして！。



特 集

この十年を顧みて

川ぶちにとうきび畑があった
そこに小さな校舎が建った
どろんこ道にうまるデコボコ道を
長靴を気にしながら先輩たちは通った

夕暗の中のほのかな蛍の点滅
汗と汗と汗

一昔前の伝説のような話である
その中から五稜は生まれた

今、車がはげしく往来し

ビルが建ち並び

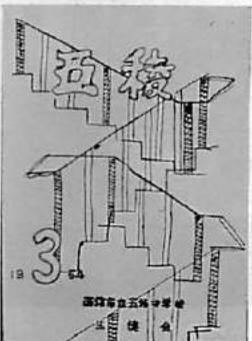
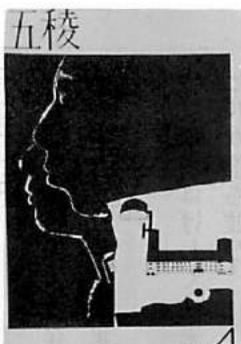
五稜郭タワーのイルミネーションが
くっきり夜空に映えている

そこに何時から木があるのか誰も知らない
十年の年月の歩みに耐え五稜の庭に
風格のある姿を示してきた





生徒会誌の
おいたち



お城の中でカケッコ(36年9月)

生徒は走った。いっせいにゴールを目ざして。観覧席はからっぽ。突如、豪雨になりました。第1回運動会はお流れでした。



おお、まい、かうんとりー (36年4月)

その日はみぞれまじりの雨でした。入学式は大川中学校の体育館でした。二校舎に分かれてお勉強をしました。雨もりがしてきました。その名は大川中学校田家分教場でした。



あばらやから御殿へ(36年12月)

ヒューッ、ピカピカだ。「先生、上靴であがってもいいですか。」土足をする者は一人もいなかった。こうして貴族は誕生したのである。



畑の中に夢殿が (36年7月)

ぼくらの学校ができるぞ。うわっ、鉄筋だ。三階だ。明日もまた見に行こう。



注目 (37年3月)



五稜郭を形どり、花で文化。蕾で若い力を表現している。(知らないでしよう……。)

ついにひとり立ち 五稜中学校

(37年4月)

いい感じ。田家中学校なら田舎くさい。
この名で追いつぎ、追いこせ、さあやるぞ!



動きだしたS・L (37年5月)

通し教室にひびき渡る生徒会長の声。
「われわれの手で築こう。すばらしい五稜中学校を。」真剣そのものでした。
アクビする者? 誰もいなかった。



熱演、蛙の合唱団?

(37年9月)

笑わないで。真剣なのよ。
第一回文化祭ですもの。制服? まだなかったわ。

時は来たる (37年6月)

でも、中体連初出場。競技場にかすかにきこえるゴリヨウ、ゴリヨウの声。クーベルタンは言った。
「中体連とは参加することに意義がある」その精神を貫いたのです。



学び舎に緑

(37年10月)

みんなで樹を植えましょう。
花を咲かせましょう。私たちの学び舎に緑をいっぱい。誰だ。樹を折る奴は……。



通し教室での体育の時間。あけてもくれても柔軟体操、マツト運動。それ以外は小石ひろい、ローラー引き、赤土運び、本当にいやになっちゃうなあ……。早く体育館が……。

われらに
エネルギーの
はけ口を

(37年8月)



とどろき渡る王者の叫び

(38年中体連)

ツートンカラーのユニホームが話題をさらった。Gのマークが突っ走り、とび、はね、うつ。五稜、五稜の歓声でうずまった。陸上・体操・バレー・卓球が次々に優勝した。五稜だんぜん強し。生徒も、先生も、父母もみな心死だった。「やるぞ」の気迫がついに「五稜中ここにあり」を知らしめた。



歌おう！みんなで…… (38年10月)

五稜中学校 校歌

小島昌平 作詞
酒井武雄 作曲

誇りにみちて 明るく ♩ = 108~112

mf

1 ひん が しー に こじょう いだきて

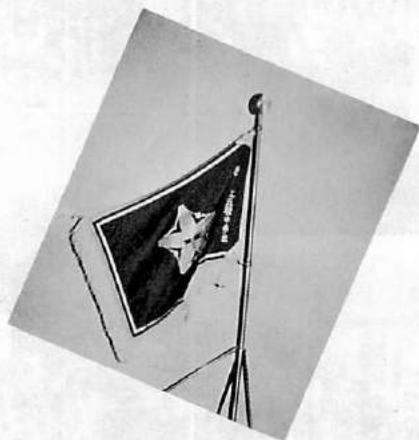
mp

たー たー なわ る ごりょう がおーか は

校歌もできた。嬉しい時、悲しい時口唇にこの歌を……。学び舎にこだますわれらの歌。さあ、高らかに。

王室のシンボル

(38年10月)



王室にたなびく小さなシンボル。輝く校旗に意気軒昂。これで儀式もできるわい…。

雨にも、風にも雷にもまけず

誘惑にも、デートにもまけぬ強い意志と忍耐力をもち、あらゆる試験に友と徹夜をし、よく見聞きもせず、一晩で暗記し、そして忘れる。

各々の教室にいて東にさぼるものあれば行って注意してやり、西に勉学にはげむものあれば行って全力を尽くせと励まし、南にスポーツに励むものあればファイトがたりないと注意し、北に恋愛するものあればその顔では無理だとい、みんなにでくの棒とよばれ、ひたすらに通った3年間。



宮廷にフアッシュヨソの華 (40年9月)

田家分教場の野ら着からある朝突如ニューモードの花が。斬新なスタイルの制服に心もおどる乙女たち。後姿がまたにくい。



あわてるな！まーず 手足を洗ってから

(41年7月)



待望のプール完成。フロ代はただになるし、俺をあざらしのように狂わせてしまった……。

宇宙人現わる 41年10月

ちがいますよ、先生方の五部合唱。それにしゅゃ口がね…。唄は心です。



カツパ=エスキモー 41年12月

夏のプールは一転してスケート場に……。体育の時間なんて信じられないわ……。

親分のバトンタッチ

(42年6月)



「初心忘るべからず」長かった一あ。でもお蔭で心にしみこんでいる。
座談会参照。



「五稜中学校の黄金時代に在学した幸運を喜びあおう」

「感じちゃったなー。」6本の優勝旗ですもの。

華麗なる変身

(43年度)



うわっ、進んでる。ぼくの顔だ。
お前の顔も。アツプに耐えるのは私の顔だけ。明日からメーキャップをしてこなくちゃ……。テレビ教育始まる。



稲穂は実る外に内に?

(44年度)



第9回文化祭

発表会



ないものはない。そうでもないけど。「ぼくは幸せだなあ。」五稜の文化祭最高、運動会も。オモシロイんだ。名物だらけです。

見よこの勉学精神（45年度）

太陽がいっぱい。近代的な病室で元気に勉学に励みましよう。「私も入院したくなっちゃった。」みどり学園の方がいいやーい。



ある朝突如!!（45年7月）

稲妻のようにヒラメイタ…。と思ったら賞状、賞品ガッパガッパ……。博愛精神に欠けてるわ。でも、すげえなあ。これで死ぬまで暮らせるなんて……。



突走る、サラブレッド（45年8月）

ヤッタゼベビー11秒フラット。見ごとなフォーム。見事なストライドで日本一誕生。限りない自己へのちよう戦に彼は走り続けた。日本の五稜中学校に。



政治家もダジダジ?（46年5月）

〇〇帳なんか廃止だあーい。先生方はもっとクラブについて。甘ったれるな！じゃ自らの手で解決するぞー。時代は変わりゆく……。現代ツ子だょーん。

栄冠涙あり（46年8月）

悲願達成。十周年にして全道大会出場。長かったなあ……。ギャアギャア泣いちゃった……。



伸びゆくわれら（46年10月） 今ここに!!

今、
沈黙の聲に耳を片向けよう……。



座談会

を語る

卒業生を交えて



出席者

生徒会

司会 鶴川 快(会長)

佐々木直樹(副会長)

大滝 泉()

木村 雅彦(書記)

白井 啓子()

横山 淳(会計)

目黒ひとみ()

卒業生

第一回 島田 道子(有斗高教諭)

第二回 山崎 正吉(教育大生)

「特集」 46年度 生徒会 「学園五稜の10年」

創立以来の先生方、校長先生



先生

- 第三回 浜地満知子 (函館短大生)
 - 第四回 八木 洋一 (工 専 生)
 - 第五回 滝本 節子 (教育大生)
 - 第六回 山崎 千尋 (中部高生)
 - 第七回 高橋日出樹 (中部高生)
 - 第八回 笹島 信平 (ラ・サレズ高生)
-
- 梶原 四郎 (学 校 長)
 - 永谷 嘉一 (36年度着任)
 - 成田 恭子 (37年度着任)
 - 三十刈智一 (38年度着任)

十周年の式典から

司会 お忙がしい中をお集りいただきましてありがとうございます。



今日の座談会は、五稜の十周年を語るという事で、古いことばに「温故知新」とありますように、故きをたずねて新しきを知るといのがねらいです。よろしくお願ひします。

まず、十月に行なわれた創立十周年の感想などから話してくれませんか。



木村 あのバックに「伸びゆくわれら今ここに」とありましたが、ぼくたちが五稜で今自由な生活ができるのも、先輩や、父兄や、先生方のおかげなのだなあと思えました。



横山 ぼくは、はじっこにすわって緊張していたせいか、やたら話が長く聞こえて、早く終わればいいなあと思えばかり……。 (一同爆笑)

佐々木 なんとといっても、野球部で全道大会へ出場したことが印象

的でした。この時のことが頭の中にかんできてタイミングが良かった。



司会 ぼくにも言わせてください。一同 どうぞ、どうぞ。 (爆笑)

会長 あの壇上で、祝辞を述べたわけですが、会長という立場上、緊張もしましたし、責任みたいなものも感じました。

大滝 会長は、そう思ったでしょうけど、ふんいきが大人の人だけでやっているという感じで、もっと生徒が



いるんな面で儀式に参加できるような式典であってほしかった。少し批判的になりますけども……。

目黒 私は途中から転校してきましたので、式典に参加できたこと

はラッキーだったと思いますが、今大滝さんも言われたように、何か式典のふんいきが、固すぎる感じがしました。



白井 来賓の話聞いていて、信じられないようなことがいっぱいありました。と言うのは、今の学校生活と比較していて、それだけめぐまれているということです。



司会 先生方は、どうでしたか。

永谷先生 私なんか創立当時からいるものだから、みなさんに敬視

されているわけではないですけど（爆笑）
 一十年間をふり顧つてみてやはり一種の感慨を持ちましたね。



まず目につくことは、客観的に見て非常に大きく変わってきたということですね。

建物、施設などがそうですが、これらにまつわる思い出というのは、その場にはないけれども、



成田先生 式典には出席できなかったのですが、今一・三の生徒から式典のあり方について、批判的な意見が

でしたが、ちょっとギクッとしました。

大人というのは、それほど別に矛盾を感じないのでですね。式典という形にはそれなりの意味があるわけですが、学校の主人公は

生徒なのですから、みなさんが式典に自主的に参加したい、あるいは自分たちも企画したいという考えには賛成ですね。そういう意見をどしどし出して、新しく意義のあるものに変えていくということが必要なことですね。とかく大人の私たちは古いものにこだわりがちですから……。

三十刈先生 ええ、まあ……。 (チョット考えこんで)



と、時代の流れのようなものをすごく感じたね。

司会 校長先生は学校の最高責任者という立場から、また別な考えがあったと思いますが。

校長 なかなか一口では言いにくいですけど今話があった儀式の



もち方というのは、あの形式が良いか悪いかということとは別にして、早くから生徒と話し合いをしなくちゃいけないかったですね。ただそれが他の行事でバタバタしているうちにぎりぎりのところにきてしまつて、先生方の動きとしてはものすごく時間が足りなくなつてしまつた。

結果的には先生方のプランでみなさんに協力してもらつたことになつたのですが、この問題については、十分考えながら早目に手をつたてなければならぬと思つています。これは今回だけでなく学校行事のあらゆることにそういうことを感じます。それからこの十周年といういつでも伝統ということが問題になるわけですが、伝統というものをどういうふうに見ているだろうか、ということを考えます。何か出てくるものが非常に形式的なもので、たとえばスポーツが盛んだ、出れば必ず勝つとか、文化的な活動でもすばらしい成績をおさめているんだというようなことで

考えられるんだけど、伝統というものをそんなことで考えていいのかという疑問があります。もっと学校の中にある精神的な風土とかものの考え方って言うかな、そういうものをもう一度かみしめて見る必要があるんじゃないだろうか。それで、今丁度ここに大先輩からズラッと並んでいるわけですが、みなさんは学校づくりで苦労した、今の生徒とはずいぶんちがった活動が入っていたと思いますね。グラウンド整備にしてもそういうことをやったということが問題じゃなくてこの中でどういう精神風土がつかわれたか、そして、それが今の五稜の生徒にどんなふうに生きているのか、あるいはまた、将来どんなものを求めていかなければならないのか、その点を話し合っていく必要があるんじゃないのか、抽象的な言い方ですが。

伝統をみつめる

司会 今、校長先生からお話のあった点を、一回生から順に話していただけませんか。

島田 はたから見れば私たちのころは苦勞ということばを使うでしょうけど、当時は、楽しいという感じでしたね。中央の古い校舎で走っても、馬飛びをしても、制服じゃないもんだから遊ぶのにしても自由という感じでしたね。なんか校舎は不便でも生徒は伸び伸びしてむしろ先生の方が今思えばたいへんという感じでした。

山崎(正) われわれ二回生を迎えるようにして丁度校舎が出来ました。その真新しい教室で勉強できる喜びに胸をはずませて入学式を迎えました。通し教室でしたが当時を思い返すと、全く、無い無いづくしであるのは教室だけといって良い状態でした。特に不自由な思い出として残っているのは、体育館が無かったことです。体育の時間も通し教室で、出来る運動といえば、柔軟運動、マット運動、とび箱といった程度で雨が降るとグラウンドにも出れずあばれざかりのわれわれにとってエネルギーのはけ口を捜すのにこまったものです。それにグラウンドといっても名ばかりで体育の時間は、土方作業に早変わり(爆笑)トラックで運ばれてきた赤土を、グラウンドの要所所にリヤカーで運んでまき、そして小石ひろいにローラー引き、そういう苦勞があつたからでしょうがグラウンドを愛するという気持ちが生徒全体にいきとどき、雨が降ったあとにはよく禁足を申しわたされたのに、その禁を破るものはいなかった……。三年の時には、技術室、理科室、家庭科室ができ、沼山校長先生が、機会あるごとに口にしておられた「どううまく時間を使うことがよいか」という問いに対する我々の答として、不十分ながらも陸上、卓球などの活躍が後輩に誉れるだけの成果だったかもしれない。それに、建ったばかりの校舎なのでものを大事にすると言うか校舎内をとにかくきれいにしようという気持ちはすごく強かったと思います。

浜地 私たちのころは、ほぼ校舎も整い、それなりの落ち着きがでてきた年だと思えます。確かこの年に、女子生徒の標準服も決められ急に女生徒がなんかこう、パツときれいになったような感じ(爆笑)それが印象的です。

八木 先輩方の話を聞いていて、そんな気質とかなんとか全く関係なくてただ生活したっていうのかなあ。先生方の言うままに動いて別にどうしようという気持も全くなく、なんか先輩方の話がきれいすぎるような感じがするなあ(爆笑) 本当にみんな、そんなように美しくやってきたのかどうか、言葉だけかざって、いや失礼だけど(爆笑) そんな気もしないわけではないんです。四回生は、卒業して高校にさえ行けば先生方も両親も何にも言わなくて、「おおよくやったなあ」なんてほめてくれるから、まあそんな感じですよ。さあ、ひょっとしたら僕だけでも知れないけど。(爆笑)

滝本 藤川校長先生の「人間は考える葦である。」とか「初心忘るべからず」という言葉が、当時もそうでしたが、今でも印象深く残っています。何か先生方のほうがはりきって、生徒はそのレールに乗っているという感じが強かったですね。

山崎(千) 私たちのころは、校舎もほぼ完成して特に一年生の時プールができて、一番良い時期にいたように思います。すごく楽しい中学校生活という感じで、苦労話なんか全然思いつけないんです。ただ、生徒会の会長選挙で、三回もやりなおしをするという変なことがあって、生徒会にはすごく無関心な人が多くて、私も生徒会の役員をしていましたけどどうしたらみんなが協力してくれるのかわからなくて、すごく悩んだことが思い出されて……。

高橋 今、山崎さんが話したことなんですけど、僕らの時は生徒会活動を先生方の生徒会から生徒の生徒会というように「マンネリ化を打破しよう。新しい生徒会を。」ということで、意気込みだけはすごかったような気がします。

笹島 僕は卒業式の時に、無責任なような答辞をやりましたけどあれはあれでよかったと思っています。五稜も十年近くたってある程度初期のころの活気というか、そういうものがなくて、学校全体の流れが何となく惰性的でいったい何のために学校へ来ているのかという疑問も生まれてくるし、一種の反感のようなものがあつたことは事実ですが、果たしてそれがどういふ結果になったか、ぼくの知るところじゃないですけど……。

水谷先生 総じて言えば、三回生あたりまでは、確かにいろんな作業をしてそれにとまらなう苦勞をされたわけですから学校のものを大切にするとか、何かを自分たちの手で作っていかなければならぬというような氣迫はあつたように思います。

三十刈先生 学校が新しいために、生徒自身働くことに対して、おつくりがらずによくやっていましたね。ところが、最近の生徒はちらかすけど、後片づけをすることを好まない、そういう点ではずいぶん違いがあるのではないかなあ。まあ一口で言うとう、物を大切にしたり、学校を大事にしたりという点では当時の生徒を見習ってもよいのではないかなあ。

成田先生 昔の生徒はガリ勉タイプというのか、職員室にまで「勉強、勉強」と押しかけてくる生徒が多く、それだけ熱心だったのかも知れないけれど、勉強一辺倒といったタイプの生徒が多かったように思うの。でも今の生徒は、勉強と平行して、生活を楽しむことを知っていますね。それが文化祭とかいろんなものにてできていくのではないですか。そういう面での氣質の違いは強く感じますね。

生徒会活動

司会 さきほど、生徒会の話も出ていましたけれど、今年の活動などもふり返りながら、この問題について、もう少し話を進めてみたいと思います。ぼくは、立候補するとき、生徒と総務とのかべをできるだけ少なくする。それと、先生との三つの歯車をうまくかみ合わせてやっていきたいということを書いて、実際に活動をしてきたわけですが、細かな点では色々問題があっても、それなりにいろいろな成果があったと思っています。具体的に言うと、生徒会室に、みんなが気軽に入ってこれるようになったし、文化祭での若者の部屋とか喫茶とか、特定の生徒だけではなしに、みんなで協力し合うというふんい気づくりに努力したつもりです。今考えると、それこそ、保坂先生の言われるように「ムッタクタヤル」そういう感じでやってきて、その結果がどうなのかということ、先生方におたずねしたいのですが……。

佐々木 今、「ムッタクタ」やってきたといいましたが、ぼくは、楽をした方かもしれない。(爆笑)でも、いろんな行事があるたんに、つくづく大変な役だということは感じました。口先で言うほど、簡単な仕事ではないと思っています。

大滝 私は二年続けてやってきましたが、何か今年が一番、自分たちの思っていることができたように思えるし、活動的に、動いてきたという感じです。生徒総会も二回開きましたし、だからと言

って、一気に良くなったというわけではなくて、生徒会がどうあれば望ましいのかは、むずかしい問題だと思っています。

目黒 私は、「生徒の生徒による生徒のための生徒会」とか、もっともらしいキャッチフレーズをかかげて、活動してきましたが、私が考えているようなあまいものではない、ということをいろいろな場面で感じました。ある程度、先生方の助言も仰がなければ、全くの生徒だけというわけにもいかないことがよくわかりました。

横山 古いことはよくわかりませんが、今年ほど、いいことばでいえば、硬さがとれた、やわらかい生徒会もめずらしいんではないですか。生徒に、生徒会活動へ関心を深めさせたという点では、いい生徒会だったと思います。

木村 話がくだけますけど、ぼくは、あけてもくれても、原紙ばかり切って、手がしびれるくらいやったおかげで、原紙切りだけは、だれにも負けませんよ。(一同爆笑)

白井 二年生は私一人だけなので、三年生の仕事を手伝うという感じでしたが、自分なりにとても楽しかった。

司会 先生方は、どのように評価されますか。ぼくたちの活動を。永谷先生 生徒会というのは、実際問題として大変だし、むずかしい問題ですね。基本的には、学級会活動、各種専門委員会、生徒会総務との三つの歯車がうまくかみ合うことが望ましいわけですが、現実の問題として、どこか一つが停滞すると、歯車がかみ合わなくなってくるし、やはりみんな、この点を考えてみる必要があるのではないかなあ。君たちは、実に独創的な仕事をし、精神的なので、立派だったと思いますけど。

成田先生 毎年、一部の生徒だけが生徒会を動かし、生徒は関心が

うすいなどと、言われますけど、案外、生徒はどのように協力して行けば良いのか、わからない面もあるのではないですか。そういう意味では文化祭や運動会、又、落書き消しや、ベルマーク集めなどの地味な事でも生徒会で企画した行事を間断なく持つて、全生徒にしじゅう何かやらせる事によって自分も生徒会活動に協力しているのだ、という意識を持たせるとともに、それが生徒会活動ということになると思います。但しいつも総務の方で企画してやらせるのではなく、基本的には、ひとりひとりの生徒が、よいよい学校生活を築こうという意識を持って各学級で話し合われたことが、つきつきに生徒会でとりあげられ、ひとつひとつ実行していくということが、望ましいのですが……でも今までのところは、そこまでの意識を持って総務に問題点を出示してくるといった人や学級はなかったようです。学校生活を常に学校や教師側から与えられたものの中で受身に過すのではなく、よりよい学校生活の実現をめざして努力する生徒であってほしいと思いますね。そういう点から生徒総会で活発に議論された夏、冬休み帳の是非論などはよかったです。さらに自分たちに即した有効な勉強をしたいという考えのもとに討議されればもっとよかったですと思います。今後、学校生活のきまりなども再点検し、本当に自分たちに必要なものをつくりあげていってほしいと思います……。

三十刈先生 お前たちサボリたくて休み帳廃止なんて言ったんではないか(爆笑)、まあこれは冗談だけど、自由なふん開気の中で、ものが堂々と言えることは、すばらしいことだよ。それに、裏行が伴なってくれば申し分ないけど……。

成田先生 本場にそうですね。生徒総会などで自分の意見をどしどし述べれるということは、すばらしいことだと思います。日常生活の中で、身近かな問題を取り上げみんなですべてを討議し合う。生徒の意識を高めるといふか、いや高まっていくでしょうね。

司会 卒業生のみなさんは、それぞれ生徒会役員を経験されて、卒業したわけですが、今話を聞いていて、何か参考になるようなことを言ってもらえれば……。

笹島 自分たちの思うことをどんどんやればいい、ぼくはそれで良いと思っています。あまり形にとらわれないという意味で……。

山崎(千) 私たちのころは、マンネリというか、一番、生徒会の不活発な時だったと見えて、三階のあのへんな部屋にいる奴は、どうかしているんだ。そんな目で見られていたような気がします。一人一人の生徒に、どうしてあなたは生徒会にそんなに関心ないので、と聞きたいくらいだったの。今、みなさんのお話をうかがっていて、もうご立派でございませう。としか言いようのないほどびっくりしちゃいました。この部屋に入ってきて、こっちはたじたじとなって、私は本当に生徒会役員だったのかなという気すらしてきました。

山崎(正) 今、手元にある『五稜』という雑誌を見ていて感じたことなのですが、昔の五稜というのは、本当に行儀がよかったですね。先生から言われることを素直に聞いて、ただそれをやる、そういうところがずいぶんありましたね。ところが、この『五稜』の編集なんかに見られるように、今の生徒の方が、自分たちの雑誌だ、そんな感じが強くするんですけど。

成田先生 そうですね。生徒会誌が毎年発行されていますけど、

五稜どこかで誰かが、先生方がつくっているという感じでしたけど、このごろやっと生徒がつくる雑誌だということを感じて……。ある意味では、今の生徒の方が自主的に活動されていると思います。

永谷先生 確かに、技術的な面というのではなくて、生徒会の雑誌など、年々よくなってきていますね。生徒会担当の先生方のご努力もあると思います。

島田 第一回の生徒会ですが、選挙の時は推薦で、勉強が良くでき、学級委員タイプの方が、そのまま、会長になって、その人がこういう問題意識を掲げてやるというのではなかったと思います。ある意味では、幼さなかつたと思います。何か、小学生的な気分がありましたよ。だから、勉強ができるというのが第一条件で、人を引っ張っていくというようなことは、あまりたいした問題ではなかったのですね。

校長先生 僕が来たのは三年前。最初につかつた生徒会役員選挙の立ち会い演説会、あれ聞いてびっくりした。というのは自分たちの学校をどうしようかという気迫が全々ない。そして出てきた弁士が、何を言っているかというとなんのことはない。人気とりだね。鼻がへこんでいるとか(爆笑)髪の毛が長いとか短いとか。そんな話なんだね。先生方にどういふことなんだって聞いてみたら生徒会についての理想像は、放送でやるということだったけど、最近の状態と比べるとずいぶん変わりましたね。時間は短いけれどおれはこういうことをやりたいんだという気迫が出てきた。この点は非常にいいと思って見ていました。それでは前の時代はどうだったかという、とにかく何も無い所に新しく校舎ができ建

て物はきれいだっただけどまわりはめちゃくちゃだしこれはなんとかしなければならぬとがんばってきた。一例を上げれば、自分たちが一生懸命つくり上げてきたグラウンドだから雨が降ったときなんか特に注意しなくてもグラウンドをかけまわる者はいなかった。この中で話を聞いていると生徒会その物はそんなに立派じゃなかったという話だけど、学校全体は、なんとかしなければという一致した気持ちで動いていった。というようにことが考えられる。それがある時期にちよつと中だるみが出てきたんじゃないだろうか。その原因というのは、仕事を失ったということではないのか。逆に言えばめぐるまれの状態なんですね。そんなようなところから反省としていろいろなことが叫ばれてきた……。そこで生徒会はどうあるべきかということが、ぼくは生徒会というものはもっと自分たちの生活を積極的につくるべきだ。積極的に生徒会は行事を持ったらどうだろうか。文化祭や運動会、学級対抗、そういう大きな学校の流れが先にみえていたら、一学期の始めからでも文化祭の準備を始めたらどうだろうか。球技大会だとかコンクールとか、そういうものについては一切生徒会でやったらどうか。ただ危険度ということ考えると、先生方とも十分相談してもらわないといけないけど、そうすれば自分たちが一つのものをつくり上げていくなかで、協力してもらえない人の問題も出てくるだろうし、みんなやっていっているんだということが、みんなの気持を結びつけていくくんではないだろうか。あんたたちが自分たちでやりたいというそういう気持ちを、これからもより広げていくように考えていってくればなおよくなるんじゃないかと思います。

卒業生からエピソードを

司会 それでは卒業生になにかおもしろい話でもしてもらいたいと思います。当時のエピソードでも。

笹島 ぼくは一度〇〇先生に、ポカッとやられたことがある。何でやられたかは忘れませんが、そのことで逆に先生と親密になり今でも忘れられない思い出として残っています。今、PTAとかなんとかですぐ血相をかえるけど変に、ねちくりねちくりいつまでもしつこく説教されるような先生より、一発ポカッとくると、ハッとして効果できめんだね。(爆笑)

八木 数学と英語の時間が何とんでも頭に残っている。〇〇先生なんかは、はちまきに木刀を持ってポカッとくる。ハッと気がついた時にはもう遅い。(爆笑)
おかげでずいぶん勉強もできたし、やっぱりあのポカッはきいたね。

山崎(千) 私は生徒会の役員に立候補して、二回も落ちたでしょ。その時、〇〇先生が「千尋、残念だけどよくよするな」って、頭をポンとやられたのが、すごくうれしく今でもありありと残っています。自分が悲しい時だっただけに、すごく先生に親近感みたいなものを感じたんでしょうね。それと、NHK合唱コンクールの時、負けたのをマイクのせいにして、マイクをポンとたたいたらそれが倒れてものすごい音がして大変なことになる寸前

だった。あの時のことを思うと、今でも顔が赤くなってきました。音楽部だけは、何回やっても入賞でさなかつたのが残念だとか、くやしいというかそんな気が残っています。

山崎(正) 式典の時もそうでしたけど、沼山校長先生の話がすごく長いんだ。あんまり長くなって貧血をおこして運ばれて行く、それが沼山先生の顔を見るたび思い出されて……。

滝本 長いと言えば、藤川校長先生もすごく長かった。入学式の時なんか忘れましたが、バタバタ生徒が倒れてお母さんが心配そうな顔をして見つめていたのが……。でも、あの先生、優勝旗を何本とったとか、何かにつけて私たちをほめてくれるのです。そして「人間は考える葦である。」とか、いろんなことを話してくれた言葉が印象に残って……。

八木 今思い出したけど、おれ一回永谷先生にがつつり(爆笑)全市協議会で何か長つたらしい話をしていたのに、あきてきてまわりを見ると誰だったか忘れたけど、先生も寝ているんだ。俺頭に来て何か言ったら、そこでガツン。次の日あたり呼ばれて、「お前のあの態度はなんだ」とやられ、素直にあやまったんだけど、今思えばあやまる必要はなかったんじゃないかと思つて(爆笑)

高橋 僕は野球をやっていたので、そのことで一つ。前の年に五陵が初優勝し、俺たちも優勝だとはりきって中体連に望んではみたものの、確かの場に二対〇で負けて、その後一カ月くらいたつてから行なわれた少年野球では優勝した、ギャギャ泣きながらパンを食べたことが……。中学校時代といえ、やはりクラブのことがまっ先に頭に浮かんできます。

島田 みなさんはそんな思い出がたくさんあっていいですね。私は、

何というのかただ何となく学校生活を送っていたので、あれもこれもしておけば良かったなあというのが思い出みたいなものです。笹島 社会の時間だったか、先生が「お前ら寝てでもいい」というのだから、みんなすごく喜んで一生懸命寝ただけどいつだったか活版テストをやってやっと返すなあと思ってたら、先生は持ってこない。みんな「先生、活版テストどうしたんですか」って聞いたら、先生が「ホラ返してやるぞ」と言ってる、ズボンの中からサツと取り出して一枚ずつダランダランと床におとししていく。恥ずかしいものだから、それを必死になって拾う。そんなのが印象的で……。

司会 思い出はつきないようですが、先生方にも話してもらいたいと思います。

三十刈先生 ええ、私が来た時に「バレエをやれ」といわれて、男子の監督をやったんだけど、コートが今のブルのところにあった。あそこで夜遅くまでやっていると、ぶゆがものすごい。足をかいたりヘソをかいたり、とにかくあっちこちとかきながら練習をした。そして、確か潮見とやったと思うけど初めて優勝した。すごくきかない女の子がいて「先生勝ったのね」って声をたてて泣いている。接戦で優勝しただけに感激もひとしおだったんだろけれど、エピソードというより忘れられない。三年間コッコツやって、中体連の大会へ出てみて自分たちの力でこの学校の伝統をつくっていくんだという、そういう気持があの涙になってあらわれたんだろかね。

永谷先生 うーん。（かなり薄くなった頭に手をやりながら）初優勝といえば、バレエの優勝は正直いって非常に感激的でしたね。

今だにあの準決勝でぶつかった新川だったかなあ、幕切れが目に残っています。ちょうど島田さんの同期に村岡という子がいて、それがすばらしいリーダーシップを持っていてうまくチームをまとめてくれた。それが、優勝につながった。その時、チームの要になる人間がいかに大切かを痛切に感じました。

成田先生 今、クラブの時間が規定されていますけど、あの当時は本当に暗くなるまで猛練習をして、それでいて運動クラブで活動する子は勉強のほうも優秀でしたから、本当に、勉強と運動は両立するんだなあ、またそうでなければいけないんだなあということをつくづく感じましたね。

女子標準服

司会 成田先生、今女生徒が着ている制服のデザインをされたそうですね、そのことについて少しお話ししてくださいませんか。

成田先生 今、手元にある沿革史を見

てみると、四十年の九月に標準服を設定していますので、四回生が三年生の時半年くらい着たんですね。それは標準服でしたから全員がつくって強制的に着るもんじゃなかったんですけど、ほとんどの生徒が着用していたようです。今、考えてみるとあまり生徒の意見も聞かずに一方的に学校側でかたちを決めて設定して着



せたという反省もしていますけど、先生方自身が制服是非論に分かれていますね。何べんも職員会議をもったんですよ。義務教育だし、服装のことでひけめとか、負担をかけてもいけないし、一部の女生徒が中学生らしくない服装をしてそれがちょっと問題になったりして、標準服がいるのではないかとということになり、型を考えてくれということになったわけです。女生徒に聞いてみますと、セーラー服と今着ているようなイートン型と希望がだいたい半々なんです。それで私としては、実用的な面、着やすいということ、いろんなことを考えて今の制服にしたんですけど、あの時、生徒会の役員の女子を校長室に呼んで話し合ってたんです。今、今の生徒ならそういうことを許さないんじゃないかしら。もっと自分たちの要求をだしてきたんじゃないかなと思います。あの当時の生徒は、あんまり文句も言わないで「ハイッ」て着たんです。え。(爆笑)

永谷先生 僕は制服にモレーツに反対した一人なんです。当時の校長なかなかズルくてね。(爆笑)「そんなにお前たち反対するのなら制服でなく標準服にしたらよかべ」ということで、まあ妥協したんですけど、標準服という言葉は法的にはまだ生きていると思うんですけど……。

司会 儀式の時につけるリボンなんかは、最初からあったんですか。
成田先生 ありました。セーラー服を着ている学校の生徒はみんな「五稜の制服いいなあ、あんなの着たいなあ、」といいますね。

永谷先生 確かに他校にみられないような新しいスタイルであったんだと思いますけど、ただね、これ反作用ができてきているよ。「私は、北高と大妻には行きたくない」「何で」と聞いたらセーラー服着

ないからっていうんだよ。一べんでいいからセーラー服着てみた。そういう反作用もおきてるよ。(爆笑)

新しい校風

司会 話は尽きませんが、雑誌の予定ページも越えそうなんです。最後に先生方にお尋ねしますが、長い間五稜中学校に勤務されて、こういう点は、ずい分変わってきたなあ、というようなことをお話ししていただけますか。

永谷先生 五稜中の生徒は昔から……昔でもないかな。大変すなおで明朗だといわれて来ている。これは教師にとって大変ありがたいことで、こういうと何か文句をいわれそうですが別に悪い意味でなく、建設上での生徒諸君の協力とか、スポーツの強いといわれるのもこういう気質によるところが大きいと思います。反面、根性や積極性に欠けるとか言われるけど、まあ、どこにでも当てはまることでしょね。最近、一部の生徒の中かもしれないけど問題意識が強まって来ているような気がします。大変結構なことだと思えます。言われたからやるのだというのではなく自分たちの問題として受けとめるところに、これからの生徒会の飛躍が期待できます。これも十年という年月を通して来た歴史がその基盤になって来ているのでしょね。我々も大いにそのような気質の高まるように応援していきたいと思えます。あと十年たって二十周年記念式典にはぜひ参加して、その時の生徒の話をききたいね。

どこのオヤヂだろうと思われるだろうけれど。そうならないように生徒会室にでも写真を残していこうかな、とにかく僕は五稜中が大好きだなあ、僕の生涯の中で一番楽しい時期であるような気がするなあ。

三十刈先生　そうですね、「十年一昔」といいますから十年前の生徒と比べると、考えることもやることも自然とちがってきていると思いますよ。それだけ世の中が進歩したともいえるのではないのでしょうか。

本校が新設校で施設・設備が不備であった為か生徒一人一人が自分達の学校は自分達で作り上げるのだという心意気とか開拓精神的なものをもっていった当時の生徒と、教材教具にはめぐまれ、施設面も整ったりで、あまりにもめぐまれすぎているせいでしょうか、打算的で自分の事より考えない、口先きだけの実行力のない生徒がふえてきたことでもわかると思いますよ。

世の中一般の風潮かも知れませんがね。

成田先生　変ったというより、日頃感じていることの一つを話してみたいと思います。

戦前の日本の教育は、自分を殺せ、ということを基本としてなされていたのに対して戦後の教育の中心は「自分を生かせ」ということでした。自分を大切にすることがどういうことであるかはよく知りませんが、今の若い人たちは自分を生かす方法がどの様な方法であるかをわかっていないということも事実ですね。それはやがて歴史が解決してくれるでしょうが自分を殺せから急に、自分を生かすに転換して物事がうまくいくはずがありません。自分を殺せということが極端であったように今、自分を生かせが極端な世

の中になりつつありますね。そのせいかどうかわかりませんが自分さえよければ、他はどうでもよいというような身勝手な行動の生徒が多くなりつつあるように思うのですが……。

これからの展望

司会　校長先生には、これからの五稜中学校の展望のようなものを話していただけませんか。

校長先生　在校生の諸君は全体的にみれば恵まれた学校環境の中で楽しい日々を過していると思います。それは先輩の諸君がその時代時代にせいっぱいの努力をして、今の生徒に「打ち込めるもの」をたくさん残してくれたからです。スポーツの面でも、文化活動の面でも、教科の学習の面でもそうです。現在の在校生はこの伝統の中にあるからこそ、力いっぱい活躍ができ、充実した毎日を過すことができるのです。そしてその結果としてたくさんの賞状、カップ、優勝旗を手にする事ができ、また学業の面での名声も得ることができたのだと思います。しかし振り返ってみると、現在五稜に学ぶすべての生徒が学校生活を楽しんでいてではないことがすぐわかります。中には本校の生活が苦しくてしようがないという人もいます。また学校生活のある部分については楽しくないという人もたくさんいます。これは日常のクラブ活動でも、学習の活動でも、その力や能力の方にのみ目が向いて、もっと人間として大切なもの、例えばクラブや学級の中で互に理

解し合い助け合って楽しい集団生活をつくりあげていこうとする、人間生活の内面に目を向けた活動が少なかったためではないかと思われるのです。在校生の諸君は先輩の残してくれたすぐれた伝統の上に、「すべての友達が楽しく、意欲をもって生活できる学校」を加えて後輩に引き継ぐよう努力してほしいと思います。

中学生時代

司会 卒業生のみなさんには、自分の体験から中学校時代はこういうことをしておくべきだということがあったら話していただけませんか。

滝本 自分のやりたいことは、いっぱいあると思いますが、この中から何か一つ選んでそれだけは三年間やり通すことができたということを持つことが大事なことでないでしょうか。

矢木 別に中学生時代で決める必要はないと思うけど、興味を持つものがあつたらなんでもいいからやってみてこの中から何かつかなだらいんじゃないかなあ。

島田 ガリ勉でも何でもいいからとにかく勉強することだと思いません。大脳のしわをふやしておけばいつか役に立つと思います。

山崎(正) ぼくもやはり、徹底して勉強をやることだと思えます。それに体力をつけるという意味からクラブで自分の体をしごくのもいいですね。何をするにも体が資本ですから。

笹島 勉強をすることはあたりまえだけど暇をみては、本を読んだ

らどうでしょう。ぼくは中学生時代あまり意味もよくわからなかったけど宗教や哲学のようなむずかしい本をたくさん読みましたけれど随分役に立っていると思います。

山崎(千) そうですね。私も笹島さんと同じでたくさん本を読む

ことをおすすめます。現国なんかむずかしい文章がたくさん出てきますけど本を読んでいないとやはりわからないですね。

高橋 本を読むことも大切だと思いますけど友だち同志で友人と議論をしたり、時には先生方ともいろんな場をとらえて話をする必要ではないかと思えます。

浜地 「好きこそものの上手なれで」自分の好きな教科と不得意な

教科を徹底して勉強してみるのも必要なことではないでしょうか。

司会 みなさん今日は本当におもしろい話やおもしろい話やら、ためになる話をしていただきありがとうございました。これで四十六年度の座談会を終わります。



旧 職 員 一 覧

氏 名	職 名	前任校	転退職年月日	転任先
井上 豊	教諭	旭中	三九・四・一	若松小
西谷富士雄	〃	潮見中	四五・四・一	旭中
阿部 光房	〃	旭中	四五・四・三	市青少年 対策隊長
平沼 靖雄	〃	港中	四二・四・一	松前中
千葉 和衛	〃	八幡小	三九・四・一	千代ヶ岱小
菅原 昭一	〃	愛宕中	四一・三・三	付属小学
松井 喜一	〃	大川中	四二・四・一	鹿部中
桜井 恭子	〃	亀尾小	四六・三・三	潮見中
吉田 ヤエ	養教	高盛小	三九・四・一	港中
藤原 孝一	教諭	中央中	四六・三・三	の場中
野々村正晴	〃	の場中	四五・四・一	新川中
石塚 孝成	〃	大川中	四〇・四・一	第一古内
窪田 晴子	〃	新川小	四三・四・一	千代ヶ岱小
笠井 敬一	〃	中島小	三九・四・一	新川中
小川 智博	〃	弥生小	四〇・三・三	東高校
安井 孝	〃	新任	四四・四・一	八雲中
坂牧 達夫	〃	中央中	四二・三・一	松山教育局
竹内巖太郎	〃	愛宕中	四六・三・三	湯川中
萩原 ハル	〃	船見中	四六・三・三	愛宕中
土門 厚	〃	の場中	四一・四・一	学内小 校長
武石 光正	〃	柏野小	四〇・四・一	新川中
佛山 祥子	養教	新任	四四・四・一	訓路柏木小

各年度学級数・生徒数

年度	学 級 数	生 徒 数
36	7	304
37	12	617
38	19	899
39	19	885
40	19	834
41	19 (21)	843(865)
42	19 (21)	818(841)
43	19 (22)	817(835)
44	19 (21)	785(819)
45	18 (21)	741(772)
46	17 (20)	699(728)

氏 名	職 名	前任校	転退職年月日	転任先
佐々 陽	教諭	大川中	四〇・四・一	深堀中
三上 力也	〃	福島小	四五・四・一	日吉旁丘小
望月 年春	〃	白尻中	四四・四・一	新川中
福寿末太郎	〃	の場中	四二・四・一	湯川中
渡辺 宏平	〃	東川小	四五・四・一	日吉旁丘小
勝野 一生	〃	大沼中	四四・四・一	新川小
太田 秀雄	〃	旭中	四二・四・一	金原小中
斎藤 正之	〃	湯川中	四五・四・一	学内小 校長
福士 重雄	〃	松風小	四五・三・三	白神小 校長
佐々木隆生	〃	光成中	四五・三・三	山崎中

特集

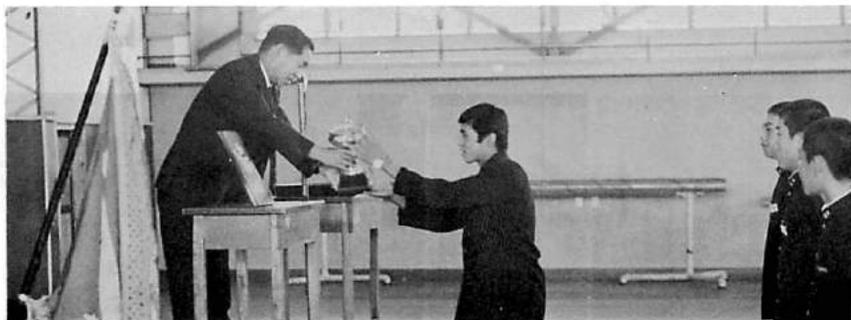
私たちの仲間から 全道大会へ

何でもいい
ある一つのものに
自分の情熱を
傾けてみたかった

この燃え上がる情熱を
この満ちた若さを
ある一つのものに
使い果たしてみたかった

振り返って
悔いのない
涙を流すことのないように
体ごとぶつかってみたかった

—創立十周年にチームとしては始めて全道大会へ駒を進めた
野球部の跡を追ってみた—



熱血に燃える健児たち

第一部

ぼくの青春

鵜川 快

白球を追う

三年間ただひたすらに

全道大会を夢みて

どんな苦しみにも耐えてきた



春休み

体育館は汗と熱気でムンムンしていた

便所へ行くのもつらかった

グラウンドでの初練習

はりきりすぎて肩がいたかった

五月

かげろうが燃えたつグラウンドに

とつてもとつても飛んでくるノック

滝のようにふきでる汗とほこり

必死になってボールを追った



六月

練習試合もたくさんやった

いろんな試合があった

途中でベンチにさげられ

暗く重苦しい気持ちで帰った試合

勝っても勝ってもしごかれる試合

なぜ「これほどまでに」と思った

こともあった。

七月

いよいよ中体連が

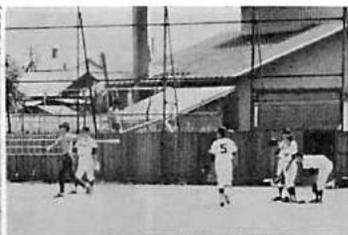
戦えるだろうか思う存分に

ふと不安な気持ちが横切る

「カーン」白球が空を切って飛ぶ

快音は小気味よく球場をこだまして

そう思うと胸が高鳴った



さあ、いこうぜ

大会は始まった

付属に楽勝

新川には逆点勝ち

銭亀決とは激闘だった

決勝戦だ

それも刻一刻勝利は近づく

最後の一球 ライナーだ

佐々木のグローブにすっほりあさまった



やったついにやった

創立十周年にして始めて

なんだか夢のようだった

当然のような気もしてきた

あんなに激しい練習をしたのだから

練習は続いた

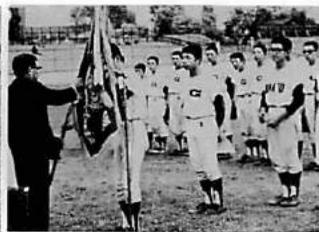
日に日にきびしくなって

地をはうような猛ノックが

右に左に飛んでくる

ノドはカラカラだ

心臓は激しく波打った



その日ぼくは折った

勝利の女神に

潮光中には苦戦した

ああいよいよ最後の一戦だ

相手は強豪上磯中

練習試合では負けていた



一点とった

追いつかれた

延長戦だ

しかもノーアウトフルベース

もう絶体絶命だ

だめだと思った

でも 奇跡が起きた

いや 奇跡ではない

練習の成果だ

切り抜けたのだ

そして 勝った 勝ったのだ

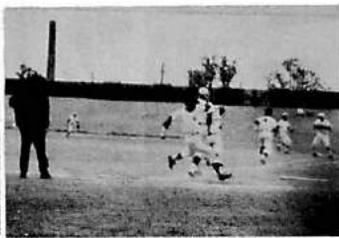
二対一で

みんな泣いている

大友も 風間も

こらえても こらえても

涙があふれてきた



三年間

「札幌」へと誓い

夢み

心の支えとし

かならずいけると信じて

来る日も

来る日も

白球を追い続けてきた



栄冠涙あり

8月9日 待ちに待ったこの日、五稜中創立10周年のこの年、野球部の宿願は今はたされました。からりと晴れた青空が選手の顔を一層明るくしています。

心は札幌へととんでいるのでしょうか。

「行ってきます。」「がんばれよ。」「優勝してくるからねえ」見送りにきてくれた多くの人達の声援をうけて汽車にのりこんだのです。



札幌到着。すぐ中央中で練習は開始されました。終って大通り公園でやれやれと思ったのもつかの間、夜宿舎で最後のミーティングが行なわれました。みなさんのきつい眼をみてください。イザ戦わんかな。



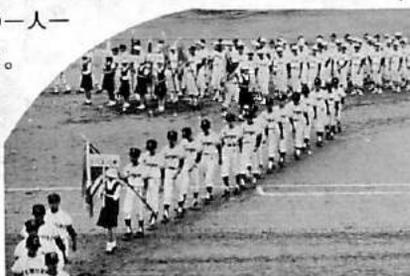
7階ホール AB会 講室 午後2時 分
 第十二回 全道中学校野球大会選手交歓会

全道中学校野球大会のプロローグ、選手交歓会が10日午後2時より道新ホールで開かれました。いずれも各支庁を代表する強者ぞろい。対戦校は十勝支庁代表の芽室中学校向かい合わせに座ったわが五稜中学校の選手。炎のごとく燃えあがる闘志をなだめるかのような口調で語る監督のチーム紹介が、新しいユニホームの背番号に吹いこまれていくのでした。

交歓会



佐々木キャプテンの掲げる地区大会の覇者を示す真紅の優勝旗。今、渡島の代表として堂々と入場行進している選手の一人一人の胸は、何が波打っていることでしょうか。監督のバットからとんでくる、あの地をほうようなノックの雨をただひたすらに追った三年間の苦しきでしょうか。いや、そうではありません。選手の胸は継続した努力によってはたしえた充実感がみなぎっているはずです。



時おりくもまからもれる日の光が雨あがりのグラウンドをまぶしく照らす中島球場。各チーム共地区大会の優勝旗をたずさえてはやる心をおちつけているようです。

ま新しいユニホームに身を整えた15人の選手の五稜のマークが、一きわあざやかに輝いています。

花やかに演出された開会式も終え、勝利をよびこむ試合はこびを頭に描きながら、じっとグラウンドをみつめています。いよいよ時はきました。



ダッグアウトをとびだした選手は、元気なあいさつを交わしました。



忙しい仕事の合間をぬってかけつけてくれた応援の方々、少人数のさびしい応援ではありますが、選手は勇気百倍。見事な試合運びで前回優勝地区の芽室中を

退けたのです。



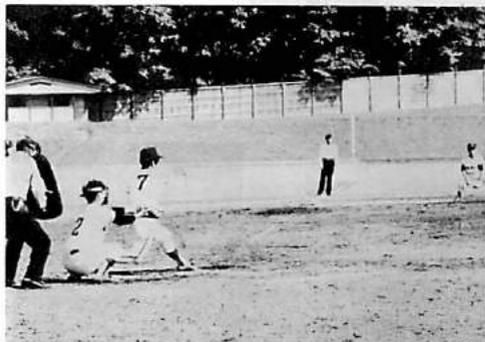
一夜あけて強豪、留萌中との第二戦。かけつけてくれた家族や知人の応援団も熱が入ります。



入りそうで入らない点数。応援団の気もせていきます。



試合も大詰め、一塁にでたランナーを
むかい入れるべく代打をつけています。



一打逆転サヨナラのチャンスにも残念ながら、勝利の女神はほほえみかけてくれませんでした。

でも、私たちはこの三年間のたゆまぬ努力の足あとから多くのことを学びました。3月も終ろうとしている今、あの夏の灼熱の太陽と共に。

(解説 放送局員 佐々木千夜)

今戦いは終わった

数々の想い出を残して

全道大会でも優勝したかった

でも、悔いはない

野球からぼくは

多くのことを学んだ

継続は力なり

「努力」この二字を

ぼくは忘れまい

鵜川 快

学級プロフィール

朝早くから続けられた

学級対抗の練習

いつしか

みんなの心は一つになり

友と友との固い絆を生みだした

あの日の一瞬

はじける歓声

きらめく若さ

ほとぼしるエネルギーのぶつけ合い

私たちは歩み続ける

今日はまた

何をもたらすのだろうか



学級対抗スナップ集



モーレツなラストスパート



ジャンプ 5 m 25 おみごと!!



ヘイ、ジュードー（シユートだよ）



体重が風をキル



世紀の一戦？



世界の恐怖！

蜂の巣一・A

みなさんは、私たちのクラス、一年A組をどのようにお考えですか。きつとどの方も、

よくわからないことと思います。

休み時間は明るくはしゃぎまわり、勉強時間はシーンと静まりかえって意見が出ない。学活はうるさいだけで意見が出ないというようなありふれた学級です（中には、例外が一二人）でも、性格的にはみな豊かで、楽しさもたくさんあります。

一日のようすを紹介しましょう。

学活が始まりましたが、ガヤガヤブーブー。先生がいらしてシーンと静まりかえりました。そこへ後から遅刻者が、そろりそろりと……先生は全く気がつきません。前の席の人もあり気がつきません。付け加えて後ろの席の人の協力体制がパツゲンでした。……授業時間になりますと、いねむり（社会科の時間だけ）・あくびをチラホラと見かけます。休み時間になりますと授業中のねむけもさめてワーワーギャーギャー。

中略

昼食時間になりますと、みんなの喜びの声が、うれしそうな声がある。五時間目になりますと満腹しただけに、なおさら眠そうです。——再略—— 帰りになりますとまた喜びの声がある。

一日のようすを終り、最後に、担任と生徒の仲は、先生があまりにも良すぎて話がしやすく、だいぶうまくいっています。

「わが友」

小西先生

小学校にいた時子どもたちに次のようなことを話したことがある。「先生はみんなの父さんでもあり、母さんでもあり、兄さんでもあり、又姉さんでもある」と無理を承知で何でも相談になってやる先生になりたいものだとの淡い望みを託して……中学校に来て諸君と話している中で（子ども子どもと思いつつ）

「オメエたちホウキの持ち方もワカラネエノカ」「センセあったり前タヨ今の世の中掃除機があるジャン」「一生懸命勉強シネエば立派な人になれネエゾ」「カアさん言ってたけど女はあんまり勉強しなくても早く高級取りの人と結婚スルコト考えた方がリコウだっでさ」「生徒会もいけれどもっと第三者的立場で見つめてみたいんです」「私たちの先生は親しみやすくほんとうにいい先生という感じはしないかどうかという不満があるかは言い表わせないが何かつかかるところがある」同じ年代になった時に自分を正しく見つめ、進むべき道をまっすぐ進む人間になってもらうためにもっともつといい父さんであり、母さんであるように努力しなければいけないと思います。



一・Bの素顔

年同じことを言われているって？)

第二条 ッセツチャンツで

先生方のアイドル？(あの顔でアイドル。他の先生方の顔、想像つくね、ウフフツ)

第二章 生徒の素顔

第三条 男子四十一名、女

子一名。(世でいう女子は、男子十八名のことである。女子は先生)

第四条 家庭科実習は、大

のがて。(こんなお嫁さんをもろうの君かい?)

第五条 けんかは当一・B

で。(けんか、大いにやっけて強くなるうノ)

第六条 よきリーダー、ゆくえ不明。(入学前のクラス編成からと

か?)

東三章 実力ナンバー

第七条 体育祭完全優勝?(天のイタズラかな?)



第一章 主藤先生の

素顔

第一条 まだまだ若く

美しい独身女性。(毎

第八条 水泳新記録ラッシュ。無念女子。(おしくも三位。女子選

手欠席か?)

第九条 球技大会、女子一位。(男子は、げげげのげれよ)

第十条 合唱は、○位のため省略

力を内蔵しているクラス

主藤先生

一・Bクラスを考える時、クラス全体としての特徴よりも一人一人の個性的な諸君がまず頭の中に浮かんでくる。そんなクラスです。というのは個々の生徒はそれぞれユニークな力を内蔵しているが、それがあまり表面にでてこないといったところでしょう。それにはいろいろと原因があると思うのですが、そこをクラスの諸君が十分考え、実行していけば、たいへん理想的なクラスになるでしょう。でも活発なところもいろいろな場面でみられます。学級対抗の球技大会等ではみごとな成績をおさめました。また委員等の活躍もだんだん積極的なものになりつつあります。私がクラスの生徒に希望したいことは、今よりもっと全体的な視野に立った巾広いものの考え方と人間としての豊かな人間性をもった生徒になってもらいたいということです。一ちよつとむずかしいかなあー

でもきつとわかる時があるでしょう。そのためには、学校でのいろいろな勉強を本当に自分たちのものに、それを生活の中に生かすということになると思います。がんばって下さい。

努力あるのみ一・C

う。「何たって明るいヨ」「勉強ができなくて、うるさいクラスヨ」
「……大多数の答えはこうでしょう。」

C組の生徒がこう言うのもおかしいけれど、ほんとうはC組ってすばらしい学級ですよ。何でも話し合える。何でも注意できる。みんなでいっしょに努力する。……真の友情が現われているのではないかな?……



「C組ってどんなクラス?」と、聞かれたら、私たちのクラスの人はこう答えるでしょう。

私たちは、どんな時でも、女であろうと男であろうと、関係なく話し合います。だから、相手のこと、いや、C組の友のことは知っているつもりです。また、知ろうと努力するのです。男子は、すばらしい人たちがばかりです。見かけはさわがしいけれど、心の中はすごくやさしいのです。そして女子、チャカチャカして、おっちょこちょいだけど、とっても理解があるんですよ。さて、筆者の私は今まで、悪い面を書いていませんが、

ずばり言っていないからなんです。ないわけが、みなさんにわかりませんか?それは私たちが、常に努力を忘れていないからなのです。

いつ、どんな時でも……

私たち、C組の生徒は、この学級が大好きです。世界中に一つしかないこの一年C組を……。もし、あなたも、この一年C組に來たかったら今すぐいらっしやいよ。一年C組は大歓迎ですよ。

可能性の開発学級

米田先生

生徒会役員より、担任の立場から見ただけの学級のプロファイルを書いて下さいと言われたとき、一年C組の担任であることを幸せに思っただ。なぜかといえば、これほど特色があり、飾らずに書いて、ほめる言葉を探す必要はない学級であるからです。

一年C組は、さわがしなどといわれたときもありました。しかしにそんな気持ちをもったときも以前にはありませんでした。しかし、現在の一年C組をみる限りに於ては、発展のプロセスを思わせる。学級対抗ハンドボール大会では自主特訓により男女とも決勝進出、負けたときは涙を流してくやしがり、文化祭の合唱コンクールでは全員のチームワークと根性で優勝に導いた。

男女協力、明かるい学級、授業への積極参加を生徒の手で打ちだし、スポーツ、文化、学習活動へと学年制覇をめざして邁進しているのが現在の一年C組の全貌である。

努力と団結一・D

ンクールもビリに近くで、とにかく、何をやってもビリである。学級プロフィールを書いて出すのにも、誰が書くのかはつきり決っていないくて、しめ切り日より一週間も遅れるほどである。

先生は、放課後、生徒と将棋をするほどやさしくて、のんびりしていて、めったなことではどならなくて、いい先生と言おうか、悪い先生と言おうか、とにかく、一口に言えはいい先生だ。

クラスの中は、変になごやかで、転校生は、すぐクラスに慣れてみんな仲良くなってしまいが、授業中は、みんな頭がいいので、めったなことでもない、まじめに先生の話を聞く人はいない。一実におもしろいクラスだ。——こういうところが、一年D組にとつて、スゴクいいところであつて、悪いところでもあろう。

一年D組の一番の欠点は、私のような性格の持ち主がたくさんいることだ。それは、消極的であるということ、何かの大会があつても、別に他のクラスより努力しようとしな、負けてもともとだと



一年D組とは、何をやってもだめなクラスで、何と言おうか、球技大会はビリ、合唱コ

思っていることである。——このことがぎやくになると、一・Dのいいところになるのだから、努力すれば、最高のクラスになれるだろう。——今、一年D組に一番必要なことばは、協力と団結である。

考えてもらいたいこと

蘇馬先生

どんなに立派な意見でも、それを述べる人に、その事に関して、愛情がこもっていないかしたら、それは、形式的なものにしかならない。暖かい気持ちを持たないで、他人に筋のおつた忠告をしてもその人の気持を硬化させるだけだ。一年D組は「話し合いの出来る学級」「仲のよい組」をモットーとして来たわけだが、学活などでは、話し合いが他人の攻撃、悪口のいい合いで終つてしまうこともあった。「組をよくしよう」「あの人は、あのままでは心配だ」というような心の暖かい意見がみなの中からもっとも出てほしかった。自分の権利ばかり主張して——主張することは大切なことだが——他人の意見もよくきく謙虚な気持が幾分たりないような気がした。他人を攻める前に、自分のことをもう一度ふりむくことも大切だと思う。D組の諸君は、男女とも明るく、人なつこく、「先生」「先生」となんでも私のところに話しに来てくれ、大変、たのしかった。点数ばかり気にして利己的なぎしぎしした、利己的な生徒が少なくなった。又、朝の遅刻者皆無であつたことめずらしい。

班編成一・E

私たちの組の先生は音楽の先生です。先生にしておくのは、もったいないくらいです。

なぜかというとても美人で、ピアノをひく姿は、プロのピアノスト以上に美しいものです。

この組の女子は、生徒でいるのが疑わしくくらいです。なぜならば、女子の顔を見ればわかります。(不美人だから)

僕たち男子は女子にくらべて、頭や顔がてんでひじょうにちがいます。なぜならばこの組の男子は、日本中から集まったハンサムな少年ばかりだからです。(冗談)

運動面ではあまり良い成績をあげることができませんでしたが、文化面で合唱二位というよい成績をあげることができました。

私たちのクラスは班編成をしています。班編成をしてよかったことは協力的になったこと、男女の仲が良くなったことです。(お昼休みのバレーボールを見てわかるノ……しかし、あまり仲が良すぎて学活の時間に、よく男女そろって仲良く話をしていく……)

これからは、あと残り少ない中一時代を議長・副議長を中心として、各委員とほかのみんなとの連絡をしながら、より良いクラス作りをしてみたいのです。(よく、男女そろって仲良く話し合いをしているのでこのことは、成功すると思います)

着実に

村田先生

“学活を始めます”に始まる一日、静かにして下さい”話をやめれ”“シュー”という声。何十べん何百べんくり返えされたことか。しかし日に日に成長した発言が多くなりました。

勇気ある発言、しかし思いやりを秘めての話し合いに、心のなごむこともしばしば、一学期には子どもらしいケンカ、イジワルというところが問題になりがちだったのが今では疎外感もなくニコニコ顔の生徒の顔をみるたのしさ。

へんな仲間はずれもなく、仲よしグループの対立もあまり目立たず討議は徹底し合い、あとはつかずはなれずにおつきあいする。こんな感じのクラスでした。男女ともきかん気の人が多く、グループ編成をしてみても、そういう点ではリーダーに不足しなかったと思います。運動面ではあまりハッスルする生徒がいなかったようです。

健康と学習と情操と運動のバランスをとって、着実に伸びていってほしいと願っています。



全員集合二・A



朝、学活の時間、しかし、誰ひとりとして席につく者なし。そこへ、「ガラッ」と、戸

を開けて、わが担任のミスター田嶋がやって来る。みんなカバンにひっかかったり、いすの上を走ったりして、自分の席へつく。そして朝のあいさつ。ミスター田嶋の得意なものは、イタリー語、スペイン語。好きな歌は「またあう日まで」だそう。そのうえ、とてもアマーイ、アマーイ先生なのだ。しかし、その先生も足が悪くて一週間ほど、病院へ入院したことがある。(さびしい)。「先生の

いない二Aなんて、トイレットペーパーのない、トイレみたい。」それくらい、二Aと、田嶋先生は、きつてもきれいな縁があるのだ。次にクラスの紹介。二Aには賞状が三枚もある。男女とも運動神経0なのだ。それなのに、ああそれなのにそれなのに。運動会では総合三位、球技大会男子二位おまけに合唱コンクールでは三位という輝かしい成績をおさめたのだ。しかし他のクラスに比べると、賞状

の数にだいぶひらきがあるのだ。「ソナナコト、ソナナコト、イジャンイ、イジャンイ、ネーネ、イジャンイ、イジャンイ、プー」と言いながら、みんな心の中ではひそかに嘆いているのだ。でも、みんな顔と勉強でカバールをしている。(一部例外)。今年がだめなら来年があるさ、来年がだめなら、もうないよ?。そうである。二Aは格調高いクラスなのだ。

病床から

田嶋先生

一学期の二Aのクラスは、編制がえでお互いの気心がわからないためか、どうしても自分勝手になりがちでした。特にその傾向は男生徒につよく、しかも現代の世相が端的に反映されて、点数だけにきゆうきゆうとする生徒が多かったわけだ。

ちょっとおそくなると、「予習にいかなければならぬから、掃除をやらなくてもよいですか」と、真顔でききにくる掃除当番の生徒がたびたびいるのは、むしろ先生の方で驚いたものです。

明るくて、節度があり、お互いにはげまし合う学級は、おのずから、学級の構成員である一人一人の生徒を、どんだんのぞましい方向に導いてくれるものなのです。

二学期の後半から、おもいがけないけがのため、担任の私が病院に入院するはめになってほんとうにすまないと思っています。幸い教育者経験の豊富な永谷先生がめんどうをみてくれますので、きつとよい学級になると信じています。

おめでたい二・B

二階のトイレに一番近く、南玄関にも一番近いという、最良の位置にある我がクラス。

こういうことから察して、さぞかし幸せなクラスであろうと考えるだろうが、全くその通りなのである。二Bを引きいるのは、かの有名な美術（ブ術）の先生、エ・ユ・進士である。教室のドアをチョッピリあけて中をのぞいて見よう。

俗にいう授業中。先生の質問に対して、この先生何語を話してるんだろうか、というような顔を、まして、手などという目ざわりなものは一切上げず、ただ、ただひたすらに内職にうち込む。たまたに意見などというめずらしいものが出ようものなら、興味の視線がいつせいに向けられるのだ。

休み時間になると、我がクラスの天才的悪知恵の働く美男子たちは、おもしろい（クダラナイ）遊び道具を出しては没収され、またまた出しては没収されている。それでもまだシツコク続けている。（ひたむきと言おうか、ズーゾーシイと言おうか……………）

顔のことにはあまりふれたくない女子だが、聞けば必ず美女と言おう。美女たちは、自分たちの秩序というべきものを守るために時おり、美男子たちの楽しうな遊び姿を、指をくわえて、ツバを飲み、ものほしそうにながめている非常につらい立場にあるのだ。



最後に一つ、これは全てノンフィクションであり、毎日平和に暮らしている我々も進歩していることを覚えておいてほしい。

自由人の集団

進士先生

ひと言で「おもしろく愉快的なクラス」だ、なぜならば三十九人がそれぞれに特異な人間であることを認めあっているからだろう。

私は食べることを楽しみの一つにしている。特にラーメンの味だけこよなく好きというわけではなく、むしろ、多種多様の食べ物を意味することが好きである。このこととクラスの彼らに対する願いが同じようで、それぞれ個性的な人間の味をもつ彼らとふれあうことを願っているからだろう。また、三十九人とともにいて感ずることに、それぞれが何らかの機会にクラスの主人公になっていることである。「消しゴム」のことは理科部で「うらないの話」になると週刊○○のなかのスクラップが、愛については「○○百科事典」よりの抜粋が飛び出す。とにかくこんな調子で私は彼らに首をとられることがあり、学ぶことも多い、それぞれの話題で入れかわり、立かわり主人公になりながら、教えられたり教えたりする自由人の集団である。

体力と頭脳で

勝負二・C

「オッ、来たぞ、」
この一言でおつやのよ
うに静まりかえる。そ
の時、我が校のコンピ

ューター？こと金田豊彦氏が登場
する。

我がクラスをおおまかに紹介す
るなら、グリーな男子二十一名（顔
形無関係）と、ビューな女子十八
名（例外十七名）——それを率い
るキこちゃんこと金田先生との心
暖まるクラスである？



女子は、校内陸上、運動会、水
泳大会、バレー大会などにおいて
つねに二位以内にフンパッている
それにひきかえ、男子は、ケンメ
イな努力にもかかわらず、つねに入賞寸前のところで破れてきた。

（このくやしき、来年こそ——）しかし、ちょっと待て、男子には
女子のパワーにおとらない頭脳という武器があるではないか。要す
るに、これで男女の釣り合いがとれているわけで、特別に女子が女
性上位というわけではなく、かといって、男子が特に強いということ
でもないということになるのである。

それでも時々、冷たい戦争が起きる。そして、事件は、すぐれた
コンピューターのもと、すみやかな処置によって（暴力を使わずに
）解決していくのである。だれかが出した意見は、すぐ学級活動に

取り上げられ、えんえんと話し合いが行なわれる。
この二Cにもっとも欠けているものはチームワークであり、それ
を先生の手を借りずに築き上げることが、われわれ二C生徒一同の
大きな目標なのである。

より人間的な？

金田先生

男子：対中—21：18—（徳島—高野—2C

二Cには妙な力関係がある。つまり、男女が対象的、しかし、相
反するようできて、結構、お互いに緊張し、弛緩し、うまくやって
いるものと思われる。

何か問題が起こると「どうにもならないヨ」「何かヘンだな」と
首をかしげる悲観論者。「しかし、どうにかしなくては……」
おさまるところにおさまるのだが、かならず横槍を入れる野党派が
何人かいる。が、ものごとをスムーズに通さないとこに葛藤が生
まれ、考え、話し合い、より人間的な成長を見ることができるとい
うものであろう。

十月の相談日のこと、話し合いが個人的な心配ごとでなく、学級
のこと、友だちのこととなって、グループごと、暗くなるまで続け
られたこともなつかしい。

直感型、熟慮型、正統派、野党派、男生徒と女生徒、みんなが溶
け合っていた時の二Cはどんなであろうか。

「ここにあり二・D

「ジリリリ……」

……(三十五分)

席につく者ごくわず

か。遊んでいる者

ズ、その他けんか、早弁、夢のつづき、トイレなど「〇」がきた
で一瞬青ざめ反射的に次行動へ、着陸成功、そこで大平一世入
場、「ガラッ」「ピシャ」「キリッ！」そして朝のH・Rまだ静か
H・R終了まだ静か、先生退場、「ワー」「ギャー」五十キロワッ
トのすさまじさ。これが、我が二Dの最高出力ノ続いて授業、なか
かどうしてうるさいもんだ。先生もあきれて口をポカーン(蓄膿症
カナ)「〇」一世の時間は違う。ちっちゃな体で「ツカツカ」メガ
ネと目玉のペアで「ジロジロ、グリグリ」させて歩き回る。たまに
「コラッ」と怒声がある
だけで大体静か?こころで
我らの業績を一つ「〇」
はじめに、長方形の紙が四
枚。総合一枚、男子二枚、
女子一枚。この時代に女子
がこの成績とは情けない。
只今女尊男卑の時代。これ
では男尊女卑カナ?次に民
主政治。議会側と国王側の
対立は全くない。多数決は
絶対的で反抗する者は誰も
いない(いても陰でコソコ



ソ、出力〇、一W)二Dブルースの一部を紹介します。

いよいよ明日は座席変え、いよいよ君ともおサラバだ、いろいろ
お世話になりました。やれやれまたまたコンニチハ(ザマミロ)
先生話がズレてるぞ、ハーヤク修正しておくれ、いやいやそうは
いくもんか、先生それからどうしたの(ウルトラマンが現……)

希望を持って

大平先生

D組の四十一名、一人一人個性豊かで将来性のある生徒の集まり
である。金道、全市的な発表会、作品展にはきつと顔を出す画家の
Kさん、発明家のI君、研究者のK君……文化祭で活躍した演劇
のK君、Yさん、Kさん、弁士のI君……新人戦でチームの中心
となって活躍したサッカーのS君、卓球のY君などまだまだ多士
済である。まあ中には担任が手をかえ品をかえして、説得したり、
ときには威圧的な態度で生活指導にせいを出さなければならぬ人
もいるが、将来性があるということにはかわりがない。

残念なことにはこの将来のある若者たち多分に利己的で、集団のよ
さ、きびしさを経験したことがないらしい。学級の仕事をするのに
見ていると、自覚してというより、先生が見ているのでいやいやな
がらやるという態度の生徒が見られる。担任は、口を開くとやれ班
討議だ、日直制だ、点検だ、注意だ、男女の協力だと云っているが
現在はまだどこか歯車ががらがっているようだ。長い目でみることに
している。

われら二・E

この二年E組ができてから、もう七ヶ月。始めのうちは、他のクラスと少しも変わらな

い静かなクラスだった。しかし、今では、始めに比べて、百八十度方向転換したようなにぎやかさ。授業のベルが鳴っても、先生が来るまでは休み時間の延長のような気分。ようやく先生が教室に入ってきて来ると、今までのうるささが、まるでそうのように、教室全体が「シーン」と、静まりかえってしまう。このようなことが、毎日のように続いている。どうも全員のスタミナは休み時間に多く消耗するようで、授業中は全

々。
担任の泉先生は、なかなか活発な先生で、いたずらが見つかってよく説教されるが、その時は神妙な顔をしているが、実のところ、ぼくたちには、あまり効果がない。

こうしてみていると、ひどいクラスと思うかもしれないが、反面また良い点もある。このあふれるほどのスタミナは、スポーツの方に発揮され、今このクラスには貼るところせましと、多数の賞状が掲げられている。

来年はもう三年。みんなも、そろそろしめていかなければならぬと思っっているようだが、この分じゃまだそうとうにかかりそうに思われる。



元気いっぱい

泉先生

二年E組誕生。「イイ組になろう」と約束してからはや八ヶ月。果してどうかな。いつもニコニコ、マスケットの存在のA君。動物のなき声のうまいB君。いたづら好きなC君。まじめ人間D君。長い足が自慢のF君。しっかりもののFさん。チョッピリすましやのGさん。個性豊かな小集団E組。最初の体育大会では、男女、イキのイイところをみせて、総合優勝。ほっぺの筋肉もゆるみっぱなしで「ヤル気十分」とこのおろかな担任を喜ばせたのも束の間、はじめての実力テストではあの意気込みはどこへやら。

喜、憂がほどよくミックスされているのも担任の精神衛生を考えてのたくみな作戦かもしれない。

女子と男子の精神年令に差があり。「ネエノそのボク」なんて言っているのを聞くのも楽しい。魅力あふれるしとやかな女性、いざというときには斗志満々、それは、数多くの賞状に語られている男子はいたづら好きで、かしましくて少々気になる点だけ、明るく元気なのはいい。

模範学級二・F

二F、元氣な学級。

その元氣なら他の組には、絶対にひけをとらない。特に男子なんか

は、元氣の固まりである。しかし、女子は、男子と対照的で、おしとやかで美人ぞろい(?)である。それに、なんてったって先生がいい。やさしくかつきびしく美人とはいえないが、とても〇〇才には全然みえない。先生がいいから学級の委員もこれ又良い。まじめにかつ規律正しく慎重に委員活動を行なっている委員。特に、厚生委員なんかは、規律正しく行なっている。ところが、こういうまじめな学級に賞状が三枚しかないというのは、どういうことか。(無いよりもまだよな)それは、団結力が弱いからではないだろうか。しかし、授業をつぶそうとする時の団結力は、非常に強化化する。すでに、各教科とも〇〇時間つぶすほどの成績をあげている。成績といえば勉強。勉強といえば、二Fには、特別弱い教科がある。それは国語である。どうして国語が弱いかわからない。(先生がよすぎるせいかも?)しかし、それくらいは、他の教科でカバー出来る。これが、二Fの実力ではないだろうか。なにも団体だけではない。個々の成績にも、すばらしいものが残っている。たとえば、新人戦で個人優勝したものの、勉強で十番以内に入っている人、その他さまざまな所で活躍している。「女尊男尊」これをモットーに二Fは今以上に飛躍し全校の模範学級になるであろう。

伸びよ若木

川原先生

「平均点を発表する」賛成の声、そして不平の声が交じって騒然となる。「男子〇点」「女子〇点」ウーン! チキシヨウ! ヤラレタカ! わいわいがやがやにやにやそわそわ。一分程してようやく静まりかえる。男子や沈んだような表情をみせる。「今日より男子特別開始」ウエッ! 「がんばれるね」気合いのこもった声が教室の隅々までひびく。「ハイイ」と、明るいはずんだ声が教室一杯にひろがる。

こういうF組はまことによろしい。よしよし、やる気が出てきたな。担任として、少々安心し、可愛さ(?)を感じず。心ひそかにファイトを燃やす。が、その先が弱い。そこから、一步一步と着実に前進する力が弱い。「力は継続なり」の大切さを知っているはずなのだが。四十名の芽は、どんなふくらみをしていくか。一つ一つの芳をすこやかに、個性豊かに育てていきたい。その伸びていく姿を、後からそっと支えたい。はぐくんでやりたい。



三・A六法全書

憲法

○H・Rを早く
終わらせるた
め、全員が協力
して騒ぐこと。

(中には反抗するものもある)

○遅刻者は、堂々と入ること。またその際、全員で盛大な歓迎をすること。

勉法

○授業を早めるため一切口を開かぬこと。(嵐の前の静けさ)
○成績がかんばしくないのは、みんなが奥手ということ。

首法

○担任は岡本守である。
○口数が少ない。(沈黙は金なり)。従って、担任の真意つかめず、(当局は総力でこれを調査中とのこと)

男法

○総勢23名である。
○行動派が多く、時には興奮のあまり野生に帰ったという者
○大器晩成型の者、忍術にこる者も出てきたり。

女法

○総勢17名である。(中には中性と名のる者もいるとのこと)
○男子に勝るとも劣らぬ活発ぶり。(床が落ちてきたようだ)
○明朗でユーモアがあり、美人ときてるから言うことなし。

業積法○前二法のような男女の協力の結果、賞状が七枚である。
各種目、みな優勝とか(あら、数があわないんじゃない)

最後に一言、三・Aは個性派集団である。

右記は、すべて実体であり、結果である。

個性を伸ばそう!

岡本先生

A組の担任になって数カ月をすぎたが、その間に君たちはずいぶん身体的にも精神的にも成長をとげてくれた。

スポーツ万能のA君、Bさん、ギタのうまいC君、D組、美声の持主Eさん、クラスのために一生懸命努力しているF君、Gさん、総じて、いつも明るく活動的なA組の諸君たちである。

壁にかかげられてある数々の賞状は個々のすばらしい力が結集されたあらわれだと思ふのだが、学習の面にまだその力が十分に現われていないのは残念なことである。

学級対抗に燃やした熱意を
今度は学習の面にかたむけて
悔いのない中学生生活を送ってほしい。

四十人の我が子が、それぞれの新しき道へ第一歩をふみだしていく姿を思うとき、丈夫な体、強い精神力をもつて自分の個性を充分發揮できることをねがわずにはいられない。



アリババと

四十人の盗賊三・B

月ゆうやけ こやけ
の 赤とんぼ
おわれみてみたの
は 一つの日

づくりに真剣にとりこんでいるのです。今日もまた。
月ゆうやけ こやけの 赤とんぼ
おわれみてみたのは 一つの日か月
(前と後ろの唄は想い出のメロディー、文化祭の自由曲です)



か月
ここに残り少ない盗賊生活(中学校生活)の日々を送っている、アリババと四十人の盗賊がいるのであります。

盗賊、盗賊と言ってもひろろござんす。精神分裂症患者からじゃじゃ馬娘まで、そろったそろった個性あふれる顔が……。

「自由と友愛」の精神をモットーにとっしりとかまえている誰がよようと、何が起きようといつもたえない笑い声。誰の発言にもつねに慎重な目を持って討論する。それが良いのか悪いのか(度がすぎることしばしば)?

賞状の盗賊にも余念がない。が、さすがに良心がとがめたのか。ちよっとひかえめに、ざっと五枚程度。何事もひかえめな方が良いのです。(ナニ?)

アリババこと我らの親方糸川先生、剣の道一筋に生きる男(ワァーカッコイイ)まがったことが大きい……とにくりつぱな方です。そして四十人の盗賊と共に、クラスづくりに、そして人間

糸川先生

人間関係を重ずる ♪×♀たち

我がクラスの学活は、プログラム委員会によって運営されていて自由に発言討論しなかなか活気に溢れている。学級対抗あるごとによく団結し、男女の仲もよろしいが、ふだんはやはり女性の方が手・口八丁というところ。春頃は「ゲラ・ゲラ」よく笑うクラスが秋風がたち始めた頃には、多少「ニア、ニア」に変わり少し元気がなくなってきたようなのが心配である。しかし一人一人の生徒が真剣になって人生を考え歩き始めたらしいことは確かである。授業中はおとなしすぎ(かりねこ)、自習時間は元気がつらつ。雄弁家が多く議長そっちのけ、誰が議長になってもウロチョロしてしまう。歌の好きな人、スポーツの好きな人、冗談をいって笑わせる人、正義の味方。短気な人、クシを持ち鏡をみる人、いつもパンにとびつく人、いつも漫画をかいている人、教室の片隅で、やすらかに寝むりにつく人、議長「只今よりHRを開きます」「日直前へできてほころびる。三B諸君よ楽しい思い出を作り忘れてくれるなよ。

ある蜂の巣にて三・C

ここは蜂の巣。22匹の雄蜂と十六匹の雌蜂が宿っています。この巣は仲間の蜂から

らも、また一時間ごとにやってくる大親分の知り合いの蜂からも「さえない巣」とされてきました。(筆者注―休み時間を除く)……………なんといつても欠点だらけの巣ですから、せっかく集めた蜜をこぼしてしまおうのです。こぼさないためには、私たち三十八匹十大親分が協力して、穴のあかないうちに修繕してしまわなければならないのですが……………。その修繕がなかなかうまくいかないので困ってしまいます。

ところで私たちの世界では、隣りの巣とのはっぱのうばいあいならわしがあります。はっぱは金・銀・銅の三段階にわかれていてその獲得数が多ければ多いほど名誉なこととされているのです。しかしどうでしょう!!この巣には一枚も……………ムム、あったあった、たった一枚銅のはっぱが……………。この価値ある一枚は雄蜂のため



みない努力の結晶でしょうか?それとも……………雌蜂のはなはだし応援のためでしょうか?……………いずれにしても、私たちにとってこの一枚は唯一の宝物なのです。

来年の三月には、みんな新しい巣を探しに力強く大空に飛びたっています。誰が一番最初に自分の新しい巣を築くことができるでしょうか。さあ!未来に向かって、「ヨイ ドン!!」

中学時代を反趨する

金崎先生

教壇に立って早や四年、ヒョウ子教師もやっと卒業生を送り出すことになった。「やっと一人前になれるな」と自負することしきり……………。朝のホームルーム、議長「何か意見ありませんか?」一同「無!」帰りのホームルーム、一同「ん!」。みんな積極的でないます。いや、休み時間となると、正反対であるのであります。まるで蜂の巣をつついた以上!!。平均化された生徒が多いようでおかげで先生は「チャプリンの独裁者」ってわけ。しかし消極的とゆうわけでもない。生徒たちは先生とよく話すし、よく笑いふざけたりする。ジョークが飛び出すのは日常茶飯事。時にはどっちが先生で、どっちが生徒かわからなくなるときもある。生徒の間も非常に仲良く、常になごやかで楽しい雰囲気の流れているのは、やはり先生の人柄か?。この楽しかった一年間、自分の若かりし中学時代を事々につけて反趨させてくれた良き生徒達よ、自分の人生にむかって、志を持って一歩一歩前進してくれ。情熱を炎にして。

無口な三Dのお話

かえ歌「無口な女」

つまらない話よ。読

む？読まない？（ヨメ

ヨメヨメヨメサン）

一、ふるさとは 悪臭ただよう 便所村（クセエナア）

頭は とぼしい髪の毛で（ピツカピカのピツカピカ）

近頃 嫁さんにしびれてる（シービレチャッタよーん）

先生は たれ目ない男（カッコイイ）

二、ふるさとは さびしい村はずれ（一同 カベカベカベカベ）

おれたちや まずしい知能指数（アホー アホー アホー）

男は副会長にしびれてる（ウンウンウン）



おれたちやまじめな

いい男（カッコイイ）

一）ホント

三、ふるさとは 遠きに

ありて思うもの（近く

にあるのは江戸紫）

世界第二位以下の 美

人ぞろい（第一位は：

……あの子）

女は「いも」にしびれ

てる（パアッパアッ

ッ）

わたしたちは 無口で

おしゃべりな女の子

業績 二Aから三Dへ、実力発揮、ためにためこんだ賞状ざつと

イチユマイ、ニユマイ、コマドリシマイ……………十五枚

オシイカナ、ふるさと三Dはまもなく、永久出かせぎの為、ゴースト化する予定。みんな移住地でも、元気にやろうじゃないか。

なあー 先生。

（はい）

忘れえぬ子ら

滝村 先生

控え目な私に学級のことをといわれてもなかなか書けないものである。三年D組はたいへん表と裏のはっきりしているクラスである。というのは、なかなかチームワークよろしく先生のいる時といない時とではずいぶん違うということである。ふだんはいくつかのグループに分かれてけっこう楽しくやっているようであるが、何か学級対抗での練習をしようとするときはクラスが一致団結し、朝は早よから夜おそくまで食事も忘れてがんばる。これは別に担任の指導が行きすぎているわけではないのだが、また一方学習面については借りてきた猫みたいに、まことにおとなしく消極的である。特に担任の道德の時間などはそれである。私はいつも「明かるくなごやかにそして自分にはきびしく」とか「勉強においては対抗意識を燃やせ」と話しているのだがなかなかそうはできないようである。先日、クラスの生徒が記念にオンコの木と声の録音テープを贈ってくれた。これからは生徒が卒業してからもオンコの木を見るたびにいろいろなことが思い出されるであろう。

三E日誌より

今はもう初冬。まことに月日のたつのは早いもので、我々が義務教育とおサラバするの調子のでなかった男子を女子がみごとカバールしてくれた。(一位)それから話しは進み学級対抗。男子は軽くあしらうほどではなかったが楽々一位(女子はなんとという奇跡かやっとな二位)合唱コンクールでは二B時代あきらかにゲッパであったが、血と汗と涙を流しながらやった練習がみのってこれもみごと優勝であった。

さあ、最終の第三セット。これからの三Eの活躍はいかに？

個人と集団

佐々木 先生

第一セット(3Eにはバレー部員が多いので)まずは担当が変わらなかったもので、一同安心するやら何やら、というところから始まる。すぐあとの体育祭。これは悲しいかな予想どおり番外。六月は楽しい楽しい修学旅行。みなさんカメラをかけた手に、重いカバン(一人だけショルダーバック)をもち、少しもくずれぬ笑顔で出かけたが、帰りはどうであったか。さて次は中体連である。三年生ともなると各クラブでエースとして活躍した人も多いもちろん勉強などは遠くかなたへ。(スポーツツなんだなあ、ホレレンドナー)



「習に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。」これはよく知られた漱石の草枕の一節であるが、一つの学級、或いは学校という集団の中で生活して来て程度の差はあれ、これに似た感慨を多くの生徒が味った事と思う。人間は自我の成長と共に集団の中での自分の存在を強く意識する。意識し、存在を確認しつつも、悩み、苦しみ、たたかい、妥協し、これをくり返しながらさらにその中で自己の成長を願う。そして人間としての自分の成長には集団を構成する人々全員の成長が欠かせざる要件である事に気付いてくる。

三年E組という集団の中で、学活、体育祭、修学旅行、球技大会合唱コンクール等多くの場面で学級を構成する一人一人の生徒がこの事に大なり小なり気付き人間としての成長の過程を一步一步と歩んで来た。さらに人間勉強を深く広く進めて欲しい。

第二セットはまさに三Eの大活躍の時であった。水泳大会では、

心のふるやと三・F

おお、我が心のふるさと（音楽の伴奏付）
Fよ。そちは何故そのように美しいのじゃ。

われらは全てのものを平等につくりあげたつもりなのに。そちだけがどうしてそのように良くでき（なかつ）たのじゃ。思い出すのうあれは一年と半分と〇か月と〇日前のことじゃった。忘れもしないあの時、今日までの長い月日のことを。はじめはバラバラだった部分品が三十円のパスルのように一つそしてまた一つと組み合わされていく過程を、そして成功するたびにわらわが与えた証拠。数多い中で形あるものとして過去十二枚（十二枚のうち六枚が一昔前のもので残りが最近のものである。涙と共に勝ち得たもの。そして喜びと共に勝ち得たものナノダ!!



～それからそれから手にとることのできなかつたもの◎コ………………。長い月日じゃったのう。そちたちは気づいておったか。あの空の太陽のようになく、強く、あなたかくそしてやさしくそちたちを見守っていたものごとを。そちたちはいつか失敗し、だれかが作ったブラモデルがこわれるようにバラバラになるかもしれないぬ。だが、もとのりつ

ばなブラモデルにもどるのに、そう長い時間はかからないじゃろうわれらはそちが一番でこの良いものと信じておる。これから、われらはそちたちがりつばにこの学校から飛びたっていくまで、そして飛びたつていってからも今までどうり空の上の太陽のごとく暖かく、やさしく見守っていくであらう。

別れてなお求め合う

門 脇 先生

共に語り合い共に反省し合った三下。そのわりに向上はなかつたようだったが。まあ個人差があるのは認めよう。自分自身を知ろうと努めてもせまい範囲では無理でしょう。じっくりと社会という大きな鏡にてらして自己を知ることですね。九年間の学問は君たちに何を学びとらせたろう。ただ頭脳の浪費で終了したわけではないだろう。正しい判断力を養うための学びの道だったね。善悪を判断する第一のステップを卒業したわけだから。にがい思い出にふれた時は冷静に過去の事実に基づいて結着をつけるのもよいだろう。その後から又新しい悩みが始まるだろうが。それは自己を知る一つの手段にもなるだろう。君たちとすごした二年間を今更回顧すまい。一人一人の心の中にいくつかの感激の場面が彷彿するだろう。少年の日はげしい感激を受けずに巣立つ程不幸なことはない。いやそれも日常の数えがそのまま役に立つような社会のあるなしが問題なのかも知れないが。お互いに甘えん坊で節度のないわがままな仲間同志であったが別れてなお何を求め合う仲間であることを信じて。

職員室コーナー

職員室

生徒のあまり好まないところ

でも学校という有機体の

営みはここで

プログラミングされ

学校全体が明日に向かって前進する

よりよく伸びる生徒であるように

はげましたわり

そして叱る先生がたの

ねがいが

生徒の知らない時でも息づいている



先生！教えて……

先生方、たいへんだったでしょう。いつも苦しめてられているものですから……。でも色々なお答えからその先生でなければ味わえない人生勉強をさせていただきました。うらのうらまで酌みとりますから……。ありがとうございました。

一年団の先生へ

- ① 赤・青・黄から何を連想しますか。
- ② ある日突然ユール＝プリンナーのようにな頭になったら。
- ③ 先生の失敗談を一つ聞かせて下さい。
- ④ 卒業生に一言。

◎ 一年団

小西先生 保体 籠球



- ① 替り玉（知っていますか）
- ② あらかじめ、そういう徴候があったら、早速毛はえ薬を飲みます。

- ③ 中学生の頃、教壇の下に石炭をおいたら見つかって、石炭箱の前に坐らせられ、一日いっぱい謝せられたこと。
- ④ 早い時間に自分が何でも話せる人を見つ

けてほしいものです。

主藤先生 数学 マスコミ



- ① 秋の景色と秋のくだもの。
- ② 寒くなるので、純毛のかつらをかぶるでしょう。
- ③ 毎日が失敗の連続で、一つは無理です。

「真理」には謙虚であれ。

米田先生 理科 理科



- ① 交通信号機（順序が違うか）
- ② しかたがないだろう。だから気にしないようにする。

- ③ 相手の気持を考えないで本当の事を言うすぎて、あとで心に残ったこと。
- ④ カッコよさでなく、地味に行きたいね。

蘇馬先生 英語 柔道

- ① ぱっとひらめいたもので、赤＝赤旗、青＝ある女の人の服の色、黄＝満州国の旗。



②

床屋に行かなくてよいのでうれしい。

③

小学生の時、自分のせいで友人が叱られた。その時、名のり出ることができなかった。

今でも悔やんでいる。気が弱かったのだ。

④

「強い者にも、弱い者にも」「男にでも、女にでも」「有名人にも、無名人にも」誰に対しても同じ態度で接してほしい。

真理に対して忠実であってほしい。

村田先生 音楽 音楽



①

赤い日の丸、青い秋の空、黄い菜の花。

②

昔なら何日か泣き暮らすかもしれませんが、今

はたいへん便利なカツラがあるのでそんなに感じないかもしれません。

③ オッチョコチョイだから、失敗ばかりしています。最初に務めた学校で、夏休み、

裏の川につないであった舟の上で、生徒と話に熱中してしまって、流されていたのに気がつきませんでした。助けを求めてようやく学校にもどると、校長先生から大部長い時間説教をうけました、というのが一番の失敗談でしょう。

二度とない中学校生活に、たくさん思い出を残してほしい。一日一日を、生きている、ということを意識して生活してほしいと思います。苦しみも、悩みも自分の努力と月日が解決してくれます。

④ 三十刈先生 社会 排球

①

秋の奥入瀬川溪流をながく道具を買いに……。

② 頭をみがく道具

③ 毎日が失敗の連続で……。

④ お速者で。

本堂先生 国語 読書



①

秋の奥入瀬川溪流

②

頭をみがく道具を買いに……。

③

毎日が失敗の連続で……。

④ お速者で。

本堂先生 国語 読書

① 子供のころ——原色の魅力。

② 名前にふさわしいと喜んで坊さんになります。

③

いうもの。

笠島先生 技術 蹴球



③

修学旅行のとき、集合場所を聞きながえて、発車三分前に着いたこと。

④

悩むのが人間と

①

秋の知床(青々とした海と空、紅葉した木々)

②

悩むでしょうね……しかし特徴を生かすよう

③

いつも失敗ばかり……聞きたい人には個人的にお話します。

④

自らの手で自らの道を選び、そして歩みつけよ。

二年団の先生へ

- ①赤・青・黄から何を連想しますか。
②プロポーズしたのはどちらですか。
③道端に千円落ちていたら。
④今の中学生にどんな感想を。

◎二年団

田嶋先生 理科 理科



す。

- ④ のびのびと生きている姿にはほほえみを感じます。(主張が先に出て、責任がともなわないのは、いつの時代でも若者につきもののようなです)

進士先生 美術 美術

- ① 交通信号
② 私の方から
③ まず、拾います。落とし主がみつからない場合は交番にとどけます。



- ① 「フォービズム
「わかる? こん
な人間が多くて
ね。」②「以心伝心
」キスするとき
に「キスしてい

- ③ 札の裏に所有者の氏名が書いてあった時
赤はじをかくから。
④ しっかりやりましょう。企画性がほしい
です。

金田先生 国語 読書



- ① 幼生にかえって
赤ーオヒサマ、
青ー空ト海、黄
ーオ月サマ。

- ③ ビックリ。でも、見ないことにします。
④ 人間とか人生とか、もっと真剣に考えてほしい。

大平先生 数学 卓球



- ① バイクで通勤しているので交通信号。
② あまりカッコヨクナイが見合いなので。
③ 拾って届ける。
④ 中学生ばかりではないが、利己的

泉先生 体育 体操



- ① 赤ー情熱、青ー青春、黄ー気遣い。
② 「ぼくのおよめさんになってくれるかい」とい

- ③ ひもがついていないかたしかめて、あたりをキョロ、キョロ、さっと拾い………
④ 明るく元気。でも現実的すぎて夢がない。

川原先生 国語 書道

- ① 平和。



会をつくりましょう。

永谷先生 英語 蹴球

② もちろん……。

③ だれかをさそっておいしいものをたべてすましている。

④ 自然に親しむ機会



① 中国―お祭りなどは大変カラフルです。

② もう時効ですが、何事も積極性が必要。

③ あとのことを考えると、拾わない方がいいかも。良心の呵責に苦しみ、届けずらさ。

④ 明るく、物事にこだわらないのは、うらやましく思います。

館洞先生 社会 野球

① 一年半まえまで車に乗っていたので信号を考える。ただし違反の経験なし。

② こちら。

③ 愚問。わかるだろう、君と同じさ。



④ 自己中心だね。

もっと人のためになることもやってみてほしい。人間は孤立しては生きていけないから。

三年団の先生へ

① 赤・青・黄から何を連想しますか。

② 願いごとがひとつだけかなうとしたら。

③ 先生になって一番うれしかったことは。

④ 今年の三年生について一言。

◎三年団



岡本先生 保体 陸上

① 人間の一生

② もう一度、中学

校生活をおくりたい。

③ かわいい子供をたくさん持てたこと。

④ 時には自分のことを忘れて他人のためにつくす気持ちがあほしい。

桑川先生 理科 理科



① 虹の色

② 地球人以外の生物に会いたい。

③ 手をやいた生徒が立派に成長してくれた時。

④ 自分にきびしく、他人にやさしく。
金崎先生 数学 水泳



① 自分の青春時代。

② 決まってるさ……。

③ 生徒から誕生日に、バースデーケーキをもらった時。(務めて)

三ヶ月目の時)

④ 一步踏み込み足らず。

滝村先生 技術 庭球

① ロマンチックな函館の夜景。



② 自家用車で世界一周みて歩き。

③ 中体連テニスで初めて優勝したこと。

④ すなおさ+まじめ。

佐々木先生 社会 排球

め。もっと積極的にありたい。



門脇

① 交通道德。

② もう一度若くスマートな時代にもどりた。

③ 月給を手にした時。

④ 比較的素直さが目立っている。

門脇先生 英語 演劇



① 夜の街のさんざめき。

② もう二十歳若かったら。

③ 第一回目の給与を手にした時。

④ 自分のためばかりでなく人のためにも生

きる喜びを知ってほしい。
成田先生 家庭 家庭



① 交通信号(とつきにこれ以外のことを連想する

人は皆変人です)願いが何でもかなう「うち

でのこづち」を与え給え。

② テストされる身からテストする立場に転じたこと。

③ 子供らしくあってほしいところは妙にオマセで大人らしくあってほしいところは変に幼いわね。

④ 齋藤先生 数学 卓球

① 名吟一句。

② 紅に染まる碧天ただ一人魅入る少女に落葉がヒラリ。

③ 快心の作「栄冠



涙あり」をカンヌ映画祭に出品したい。

④ 君と心で対話をし、手をたずさえて仕事

を完成させた事。
おこらせ、悲しませ、そして喜ばす仲間それは君達だった。
山田先生 養護 保健



① 赤黄一山の紅葉(枕)青一海の色、空の色(すがすがしさ)

② みんなが健康で幸福に暮らせるように。

③ ?

④ 今年の三年生はおとなしいと思います。

保坂先生 国語 野球

① 黄一父母の死顔。他はなし。

② 人生が二度あれば、一度は人のために、もう一度は自分のために生きたい。(この意味ワカル?)



③ 初めて夏休みを迎えた時(朝寝坊ができるから)と自己の教育観が、少しは確立

④

④

④ した時かな。
 ④ 強烈でした。君たちだけが心の救いでした。もちろん男女とも。現実は無念しいからね。

校長先生、教頭先生、

永井先生へ

- ① 赤・青・黄から何を連想しますか。
- ② 生徒に尊敬されていると思いますか。
- ③ 無人島に住まなければなりません。ぜひ、持っていきたい物は。
- ④ 生徒会喫茶のご感想を。

校長先生



② ?

① 交通信号—信号による規制がなくても、事故の起きない社会になってほしい。

- ③ マッチとなった。
- ④ なかなか、楽しく設営されました。あの中、君らは何を求めようとしたのでしょうか。

教頭先生 英語



④

安くて、うすくて、サーピスよし。限度
 こそねば、結講。

永井先生 音楽 音楽



④

アイデア抜群。音楽もよかった。

事務のみなさんへ

- ① 趣味は。
- ② 赤・青・黄から何を連想しますか。
- ③ 世の中で、一番腹の立つことは。
- ④ 五稜の生徒に一言。

服部邦子さん



太陽。

- ③ 不誠実な行い。
- ④ 失敗を恐れない若物になって下さい。

高橋市雄



風堂々と振るまうこと。

柳沢美代さん



- ① 登山・読書。一人でボケーとしているのも、趣味の一つかな？
- ② 赤—情熱。青—海。黄—真夏の

- ① アリマス。
- ② 躍動・リズム。
- ③ 相手の迷惑を考えず、発言、行動をすること。
- ④ 王様らしく、威

- ④ 心身共に健康であってほしいです。

- ① 音楽鑑賞・レ
- ② ス編み。
- ③ 秋の山。
- ④ 人の迷惑を考えない行い。



= 文化祭

クラブの歩み

創立10周年この校舎に祝典の華がさいた。

学級の総力を注ぎこんだ学年ごとの合唱コンクールを皮きりに日頃の考えを堂々とのべた校内弁論大会、音楽部員による多彩な発表。名物の演劇発表、文化クラブ部員の英知と独創を集めた展示会場の数々。いろどりの色彩と光や音のハーモニーが音高く奏でる中で文化祭のページが開かれていった。その歩みとその足あとの響き……余韻はまだ残っている。



文化祭

3E 目黒ひとみ

この日のために流された
誇りある汗を

この日のために費やされた
時間を超越した「刻」を
もう一度若者はかみしめる

今、

彼らの瞳を照らす
希望の陽がのぼる
すでに祭典の幕は
歓喜の叫びと共に
切っておとされた



年に一度の陽気な祭り

希望に満ちた

若い力がぶつかりあうとき

歌声は歌声を呼び

笑いの輪はさらに広がってゆく

寒さと苦しみの中で

たくわえられて来た情熱が

今、紅の花をつける

華やかな興奮が

はじける笑いが

賞讃のほほえみが

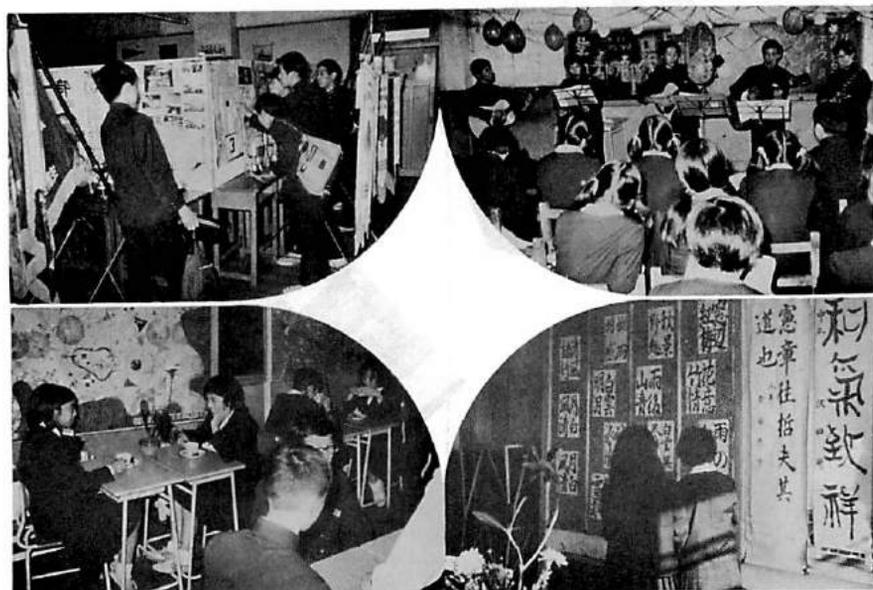
どこにもあふれている

熱っぽい祭りの日

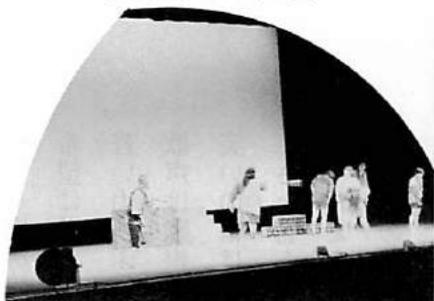
短い

あまりにも短い「刻」の中で

祭りは激しく燃えつきようとしている



ジンジャー/雪っ子。



都会のざわめきをのがれて。



素的なレースがいっぱい。



美声? アナウンサーにうつとりさせられたG・H・Kサテライトスタジオ。



美の殿堂!



本場の味ダヨ、五樓ラーメン

家庭

「もっとたくさん部員が来てくれるといいのになあ。」と思いながら、今年一年やってきました。所属している人は多いのに、本当に活動してくれる人はごくわずか。家庭科クラブの最大のなやみです。それでも、顔をしかめて刺しゅうをしたり、なんだかんだと言いつつ染色をしたり、本当に楽しい一年でした。今年が創立十周年ということで、ずい分、文化祭の内容にも苦労しました。それでも、本当に十分な活動ではなかったと思います。来年は、今年以上に、部員が協力し合



い、すばらしいものにして下さい。家庭科クラブというのは、

派手なクラブではありません。歌うこと、どんなに大変なことかわかったことだと思えます。何しろ、二時間以上立ちっぱなしで、歌うのですから。……ああ、それなのに、それなのに……。

音楽

今年、先生をはじめ部員を中心に、夏休みはもちろん、ずいぶん熱心に練習をしました。みはもちろん、ずいぶん熱心に練習をしました。た。しかし、なかなか集まらなかつたり、かなり反省すべき点もあつたようです。また、収穫として



九月九日……やるだけやったものの、私たち三年生にとって、やはり未練が残りました。そこで思ったこと。何事もこれでもいいということはないのです。どうせやるなら、徹底的に納得のゆくまでやってほしいのです。そして、後輩のみなさん。私たちのたせなかつた夢をはたして下さい。来年も、また、九月十五日はやってきます。最後にいろいろと御指導下さった永井、村田両先生に、部員一同、心から感謝します。

美術

ちよつと窓から外をながめて下さい。空・道・木・花・鳥……。

これらをかメラで写してもいいのですが、描いてみませんか。造ってみませんか。きっと今までに気がつかなかつたことを見つけるにちがひありません。けつして上手にとはいけません。はじめはマンガ風や簡単なスケッチ程度でいいのです。それが興味を増し写生画彫刻、創造性の豊かな方には描象画などいろいろあります。今年の文化祭を思い出して下さい。あのマンガコーナー（あれでもピジュツ？）は好評でした。へんなことをいわ



ないで下
さいよ。
あれはり
っぱなモ
デルつき
なんです
から。
ところ
がこのよ
うな活動
も部員の

不足ではなんにもできませんね。みんなであ
のしくおしゃべりをしながらつくりましょう。
特に二年生の方の入部を希望いたします。

理科

僕たちのクラブは、三年前から「理科クラ
ブ」として発足しており、長い歴史の上に築
きあげた情熱?で化学・生物・発明工夫の三
つのクラブを動かしてきました。

でも、今年の文化祭には、例年程の盛りあ
がりがありませんでしたが、部員一同、ない
知恵をふりしぼり、ふりしぼりして、新しい
案を考え出し、文化祭を活気あふれるものに

してきました。

今年、化学・生物が部費及び場所の関係
で発表することができませんでした。しかし
発明工夫では、例年通り仲々の好評を博した
ようです。僕ら理科クラブは、それほど目立
った活躍をしていますが、僕らは文化祭だ
けに情熱をブツケているのです。そして来年



す。

技術

「一月よりの使者?」

そして、
十年後に
は、函館
一素晴ら
しいクラ
ブに育て
あげても
らいたい
と三年の
部員は思
っています

男子の諸君、技術室を知っているだろう。
またすばらしいクラブ、技術クラブも知って
いるよネ。では少し技術クラブについて紹介



するよ、
まず、パ
ツとしな
い滝村先
生を始め、
多くの部
員、だれ
もが家を
建てる
センスの
持ち主よ。

くれた、だれもが、「うまい、すばらしい、
むつやるな。」と言いたくなるような作品が
ずらり、ずらり、ゲームも見たよネ、かなり
のうでの持ち主ばかりだ。質問、「なぜあんな
に作品が少なかったの?」それは、ちよつと言
いづらい話したが、実は部員が足りなかった
のである、ほんとうに、みなさんはどうかして
いる、このようなすばらしいクラブがあると
いうのに、入って損をするというとは絶対
ない。文部省推選、教育委員会黙認の技術ク
ラブへ、来い、入れ、絶対、頼む。

体育

＝中体連＝

暑さ、寒さの続く中できびしい練習は続けられた。「われらの手で創立十周年を飾ろう。」と部員一心を合わせて励んだ。

先生の声もきつくなる。

「ボールから目をはなすな。」

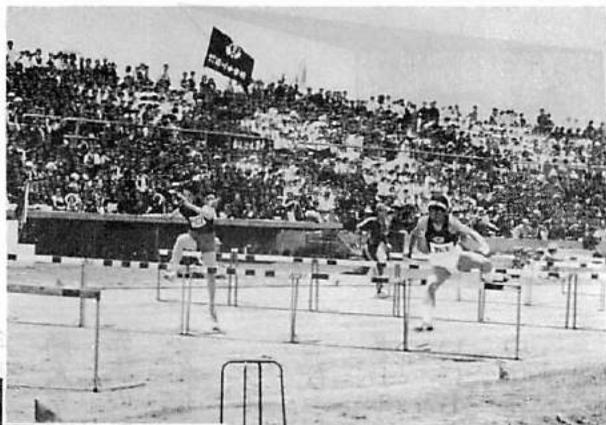
「フットワークが悪い。」

「もっとコートに近づけ。」

ボールにとびつく姿や顔に汗がいつぱいにじみ出る。

中体連は始まった。





空は青空、心は？

高く、速く、より強く



目指すは中国？



劇的なシュート



軽やかに舞う



声援むなし、一点差



ウルトラマンもびっくり

健闘むなしく……!!



破竹のイキオイで!!



腰が重すぎた。



宿敵船見に辛勝。

強烈なスパイク。



に満ちた若者の息吹があった。この力が、
主将掛端を全道大会に送り出したのだらう。



気はあせり、懸命にボールを追う選手の顔は

スロー
ツのだい
ご味、そ
れは、選
手と応援
団とが興
奮のるつ
ぼの中で
溶けあう
事だ。今
でも生半
しくよみ
がえって
くる光成
中との、
あの準決
勝、二対
二で迎え
た五番も
ファイナ
ルセット。
応援団の

青ざめる。もうダメかと何回も思った。篠崎
のラケットはボールを捕えた。すべての視線
は白い一点に吹いつけられた。……「オー
ノやっただぞう」信じられない逆転劇に、皆我
を忘れた。斎藤先生はじっと天井を見つめて
いた。戦績は、団体準優勝、個人第三位だっ
たが、今私たちの心はクラブ活動での充実感
で火照っているのです。

(掛端俊一)

蹴球部

我がサッカー部は、伝統の浅いクラブです。
今浅い伝統をかく掘りおこして見ようでは
ないか。まず、中体連では、一昨年光成に惜



排球部

敗して第
三位にく
い込んだ。
今年も光
成に惜敗
(ザンネ
ン)した
けれども
上位にと
うにかく
い込んで
失敗などするものなら
すかさず 先生のボールが

打倒深堀

岩崎真理子

先生のどなり声が
私の耳に、ピンと感じる。
先生の力のこもったスパイクが
こつちをめがけて、とんでくる。



ました。

一方男子

は、弱い

弱いと言

われなが

らも、一

回戦の対

愛宕戦で

大差をつ

けて勝ち、

二回戦の

柔道部

わが柔道部は、理解ある蘇馬先生を先頭とし、男子数名と女子一名（マネージャー）はいうまでもなく、中体連優勝をめざし、必死に練習を続けている。われわれの主将、須田誠氏、副主将大須田裕氏は、今までわれわれを努力と根性をもって率いてきてくれた。彼らが教えてくれたことをもとにして、われわれ二年生は、三年生諸君のつくりあげた伝統をあくまでも守り続け、それ以上の伝統をきずきあげていきたい。

来年は、私達二年生が主体となって、みな



庭球部

五稜中柔道部とは明日にかける、ファイトにあふれた、素晴らしいクラブだと思う。また、三年生諸君の目標は、われわれがきつと果たしてみせる。さらば！三年生諸君。明日にかける柔道部。来年こそは、きつと！！

白いボールを追いつつ
コートの中を かけまわる
優雅なスポーツ

そんなのは うそだ

そこにあるのは

使い古されてまっくらになったボールと

汗だくになった みんなの顔 顔

ラケットにボールをぶつけるだけの

だれにでもできる

たクラブ かんたんな スポーツ

を、つく

りあげて うそだ

何回も素振りをして

それでも とんでもないところにボールは飛

き、よ
り充実し
たクラブ
を、つく
りあげて
いきたい
とおもう。
最後に

最後に

対的場戦では、試合内容も応援もすばらしかったのですが、健闘及ばず30対29という少差で破れ、三位入賞を目前にしながら、涙をのみました。三年間の苦勞が、この日一日でふつとんだのかと思うと、くやしくてたまりません。ほんとうに一生懸命やっただけです。しかし、今年の一、二年生が、この我々のくやしさを打ち消すかのように、新人戦でみごと二勝してくれました。もう少しチームプレーを身につけて、実力のある部にするよう努力してもらいたいと思います。最後に、長い間ご指導下さった、岡本・小西両先生に感謝します。

(横山雅彦)

毎日毎日 遅くまで練習して
汗みず流して 練習して
それがいったい なにに なるんだらう

でも私は知った
スポーツを通して
すばらしい友情と
不屈の精神が
生まれることを

白いボールを追い続け
コートの中をかけまわる
優雅なスポーツ

そんなのは うそだ



(三本恵里子)

水泳部

まだ、晴寒い天候が続いていた六月中旬。
滴々とたえられたプールの水がわたしたち
の目の中で輝いていた。

「打倒船見」を合言葉にしてきた男子部員。
「連続優勝」を心に決めていた女子部員。昨
年のシーズンが終わると同時に始められた陸
上トレーニングの思い出。『集合が遅い』休
むな』のどがカラカラ』いやだまたうさ
ぎとび』こわいね』決して楽しい思い出は
なかった。

そして放送水泳。男子は一点差で船見中を
破り男女共優勝。一ヵ月後の中体連では、男
子は船見中に、女子は潮見中に破れ共に二位
総合的には、不成績ではあったが、個人的に
は、道中学新がでるやら、大会新がでるやら、
自己の記録を大幅に縮めていた。そこに個人
競技のあたえてくれたものを感じる。

秋風が吹き始めた九月。わたしたちは、ま
た新たな目標を持って、プールから去ってい
った。

(田島、大滝)

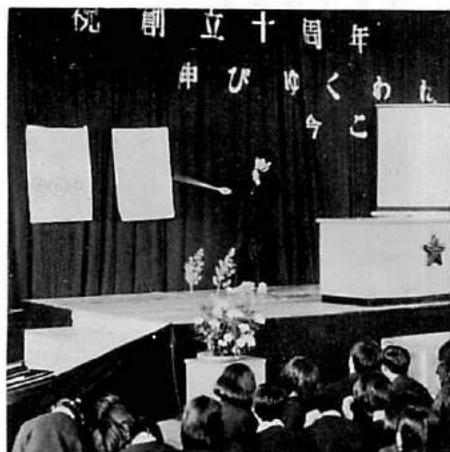


私たちの研究発表

10周年記念—理科部

科学技術が急速に発達し、「情報化時代」と言われる70年代に時代の要請にこたえる人間教育が叫ばれている。

情報化時代に堪えられる創造性や思考力を培うべく本校理科部も研究にいそしんだ。その成果をふりかえってみよう。



アメンボはなぜ水に浮いて

泳げるのだろうか

一年C組 小谷 満

動機 アメンボと同じような形をしている蚊が水面を歩くことができないのに、どうしてアメンボだけが、わけなく水面をすべるように歩き、活動ができるのか不思議に思ったので調べてみることにした。

方法 一、他の昆虫と比較しながら形態の観察、動作のしかたなどについて調べる。二、水以外のいくつかの液体上では、どんな状態になるか。など予想される事柄について比較実験してみた。

結果 一、アメンボの足を顕微鏡観察したところ、十分な浮力が得られるように密生した毛があり、しかも水をはじけるように油性があることが、石けん液を使つての実験で明らかになった。

二、運動の仕方は、前後の足で体を支え、中足を早く大きく動かして進むことがわかった。三、液体の性質で表面張力の小さい場合には浮くことができないことがわかった。

以上の結果などを総合すると、物理的な力のつり合いと、化学的な水をはじく要素を兼ねそなえていることがいえると思います。

洗剤のおよぼす

金魚への影響について

二年C組 柳谷 博 D組 小泉 悟

あるときファミリー洗剤で金魚の水槽を洗つてやつたところ皆んな死んでしまったことがあったので、その関係を調べてみようと思つた。実験にあたっては、できるだけ正確さをきすため、前提条件をそろえることに留意した。

結果については、予想をはるかにうわまれる毒性のあることがわかり、ファミリー洗剤の影響の大きさにおどろかされた。

分の一にうすめた場合でも金魚は死んでしまった。

このことから容器を洗剤で洗う場合は、真水で何回もゆすぐ必要があることを知つた。

化粧品における

気胞のできかた

三年C組 外崎 峰 広

よく化粧品などを使用後に気胞ができてることがあります。このことに疑問をもち、化粧品における気胞のできる形態について調べてみました。たんに気胞をつくつただけでは調べることが不可能なので、容器から一つの気胞をとりますのと、容器内を減圧することによる気圧と気胞により調べてみました。

前者ですが、容器を振る勢いでキャップに気胞がいくつつかつきます。この時、キャップは特別な形にしなければならぬ、これは発胞成分が少ないためです。キャップにたまった気胞が一つの大きな気胞になりキャップより表面張力の小さい大きな球状になり、キャップの支点をずらした場合ドーム状にもなります。これらの確立は低く同種類で約10秒ぐらいです。容器内の空気が、振る運動エネルギー

ギーの変換により膨張し、気胞をおしあげます。

後者は、水流ポンプにより容器内を減圧していくと化粧品品の気胞はつぶれてしまいました。けれど発胞成分の違うものではつぶれないこのことより真空でなく液膜の強度によるものです。なぜなら、化粧品蒸気があるためです。これらのことを利用して液膜の強度が無限な気胞を広がりゆく宇宙と仮定できるようです。発胞成分による液膜の強度の関係をこれからの発展研究としていきたいです。

発明工夫

人は誰でも、偶然にインスピレーションがわき、それに従ったおかげで創造をした経験をもっているし、今後またそのような経験をすることであろう。しかし創造を意欲的に繰り返す行なうためには、心的能力のすべてを振り立たせなければならぬ。意識していきましょうとまいと日常生活の一部になっている習慣と伝統とは、ほとんどあらゆる場合にわれわれを縛っていることに気づく。

本校は開校以来発明工夫部を結成し、新しいアイデアを目指し活躍してまいりました。そして現在では全生徒が参加するようになり文化祭にはいろいろ生徒の苦心した作品がずらり並びお互いに批判しあう風景をみるにつけ、現代の消費時代の中に生きる生徒に対し「絶えず考える、計画する、実行する」の態度を身につけさせるべく今後とも努力指導していかねばと思います。

さて本年も市発明工夫展示会で本校は第三回目の学校賞をいただく

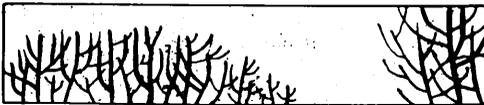
きかつ毎年北海道展、全国展にも参加するまでに成長しました。一時は生徒自身にもなぜこんなに「発明工夫を」"という疑問がないわけではありませんでしたが、いまでは殆んどどの生徒に定着したようです。そして苦心して作ったあとの喜びあうという精神が生徒の心の中に少しづつ培かれていっているようです。

発明工夫を通して理科研究をするグループが多くなり、この方面の開発になお一層の努力していかねばと思っている。本年分の発明工夫作品展示会では、市長賞、渡島教育長賞、NHK賞の特賞と努力賞四点の入賞を獲得し、その作品をご紹介しますと、

「流れ止め付そろばん」市長賞

三年D組 石垣 修

ソロバンを使用しているとき、たまたま珠が移動して読みとれにくくなることがあり、もう一度やりなおさなければならぬ場面があります。またソロバンを持って歩いているときチャラチャラと珠の音がするので、以上の点をどうかして是正しようと創意工夫してみました。その結果ソロバンの裏面に珠のすべり止めの考案に思いついたわけです。



「理髪用エプロンの改良」

函館商工会議所会頭賞

三年A組 青木和彦

床屋へいつてイヤな感じは頸のすき間から小さな毛髪が入ってくる事です。そこでどうかして簡単な方法で身近なもので、しかもとりはづしが自由なものはないか、いろいろ考え実験してみた結果戸のすき間によく利用しているフェルトに目をつけた次第です。早速とりつけ使用してみたら、特に肌ざわりがよく、現在理髪店で使用している材質より手軽で、首がしめられても適当な強さで首にさわり本当に理髪のあまり好きでない私ですが、いつも居眠りしながら心地よく家で整髪していただいています。

「天体写真撮影用赤道儀」

NHK賞

二年D組 市川紀美雄

私は小学生より天体観測していますが、市価で売っている天体望遠鏡は経緯台と赤道儀の二種類に分れている。星の天体写真をとるときにはガイド星を中心にまわりの星が回転して写る難点があるのが経緯台です。赤道儀は天体写真を撮影しても前に述べたような難点がないので使用しやすい。そこで私は赤道部分に望遠鏡のバランスをとるのにバランスウエイトを普通つけるが重くなるので、バランスウエイトをとりカメラでそのバランス調整を試みたら、大変

使用上軽くて操作しやすくなった。

「伸縮自由なクズ入れ」

三年F組 星加裕子

「伸縮自由なエンピツ立て」

三年E組 佐藤恵子

「ベルト式せんぬき」

一年C組 沢川抄子

「倒れてもこぼれない小物入れ」二年C組 太田千佳子



そよ風

S. 46. 11. 2
新聞局

生徒会誌11号に
ご期待を乞う!!

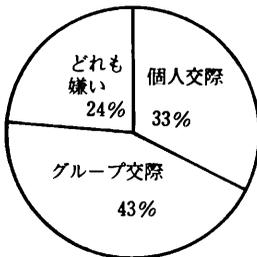


人は、この世で一番広いものは人間の心だと言う。確かにそうかも知れないがその心も、持ち方によつては一番狭いものにもなりはしないだろうか。現実の小さなでき事に惑わされ、型にはまった見方、考え方しかできない人。純粹な心を失い、何事に対しても疑惑のまなざしで見える人。そういう人が実際は、あまりにもたくさんい

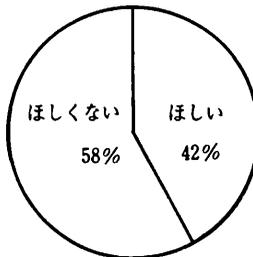
るような気がする。だからいつも誰かが傷つき悩んでいる。心の触れ合いを支えとして生活している私達にとって、それはあまりに悲劇な結果ではないだろうか。広くおおらかで暖かいはずの人の心もともすれば狭く醜いものになってしまう。そんな中で私達は、互いの心を大切にしていかなければならない。もう一度、我が「心の窓」を見つめなおし、常にあの澄んだ大空が顔を出しているような人でありたい。

男女交際

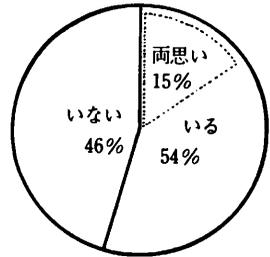
個人、グループ交際
どちらが好きですか？



好きな人がいない人…
ほしくありませんか？



好きな人はいますか？



=== 『そよ風』の記事より抜粋 ===

傾向調査

五稜中生徒の マスコミ感度は？

情報化社会といわれマスコミの氾濫する現代にわれら中学生はどう対処すべきか取捨選択を正しく判断する態度をいかに身につけるべきか。

われらマスコミクラブが身近な素材についてアンケートしてみた大要が次にのべるものである。若干の分析を試みたがその当否は諸君の判断にまかせよう。



マスコミクラブ提供

傾向調査

五稜中生のマスコミ感度は？

マスコミ部

五稜中学校の生徒ノ、きみたちにやってもらったアンケート結果
 ナノダノ、まずは、見てくれ一同

●アンケート一

※好きなテレビ番組、ラジオ番組

テレビ 第一位 俺は、男だノ 30%

第二位 サボテンとマシユマロ 28%

第三位 映画 21%

ラジオ 第一位 アタック ヤング 37%

第二位 ダイヤルリクエスト 25%

第三位 サンデージャンボスベシヤル 15%

※きらいなテレビ番組、ラジオ番組

テレビ 第一位 ニュース 17%

第二位 プロレス 8%

第三位 時代劇 7%

ラジオ 第一位 ニュース 8%

第二位 パンチパンチパンチ 7%

第三位 イレブンプロムナード 4%

この部分を見て、まず、気付くことは、嫌いな番組のトップが、
 ニュースだと言うことと、ローカル放送（ラジオ）をよく聞いている
 ことが目につくようだ。筆者の個人的意見としては、幼稚なテレ

ビ番組を好み社会人として必要なことに、関心が薄いと考える。こ
 れは、あくまで個人的な意見である。君たちの意見はどうであろう。
 そして君はノ……………

またアンケートに、目を通そう。

●アンケート二

※好きな 日本人作家

第一位 夏目漱石 31%

第一位 三島由紀夫 31%

第三位 芥川龍之介 17%

※きらいな 日本人作家

第一位 三島由紀夫 22%

第二位 芥川龍之介 10%

第三位 松本清張 7%

この部分のアンケートを、まとめていて感じた点は、教科書に出
 てきた作家の名を、好きもきらいもなく書いたという感じがある。

ここまでのいいっぷりでは、いいところが、何もないように感じ
 るが、下位にいくらか真実味のあるのが出ている。

●アンケート三

※好きな 言葉

第一位 友情 23%

第二位 ありがとう 19%

第三位 愛 6%

「友情」、「ありがとう」、どちらも中学生として、実感がある
 のでアリマス、だが、「愛」、これを、社会人が聞いたらどう思う
 であろう。小学生が、エレキグループを作っても、さまにならない

のと、五十歩百歩だと、筆者は考える、ちょっと筆者の意見が、多
 すぎるとの声も聞えるので――。

※きらいな言葉

第一位 キライ 21%

第二位 死 17%

第三位 馬鹿 10%

「きらい」この言葉が、意外に多いのは、異性への気の使いす
 ぎかも？ それにしても、「バカ」は、いつ聞いても下品なことば
 ですね。おたがい使わないようにしようね。

●アンケート 四

※好きな色

第一位 白 27%

第二位 青 22%

第三位 黄 10%

※きらいな色

第一位 黒 16%

第二位 赤 12%

第三位 柴 12%

●アンケート 五

※好きな音楽

第一位 ロック 22%

第二位 フォークソング 19%

第三位 ポピュラー 17%

※きらいな音楽

第一位 ジャズ 23%

第二位 クラシック 11%

第三位 歌謡曲 6%

●アンケート 六

※好きな楽器

第一位 ギター 39%

第二位 トランペット 26%

第三位 ドラム 14%

※きらいな楽器

第一位 ピアノ 6%

第二位 たて笛 5%

第三位 三味線 4%

●アンケート 七

※好きなスポーツ

第一位 サッカー 25%

第二位 バレーボール 24%

第三位 野球 12%

※きらいなスポーツ

第一位 器械体操 20%

第二位 陸上 11%

第三位 バレーボール 5%

これら八項目に、性格が出るのではないだろうか、「ギター」
 「ロック」「フォークソング」「ドラム」「トランペット」「サッ
 カー」など、若者のエネルギーを爆発させることができるもの、快
 活なものに、心をひかれるようでありマス。ここの部分は、くどく
 どのべることもないと思うので、次の項目にうつろうデハナイカ。

●アンケート 八

※長髪について

男子 よい

40%

わからない

19%

ある程度はいい

11%

女子

よい

11%

限度を考慮するならよい

8%

不潔

8%

よいが半数近くいます。しかし、反対意見も、多いことも忘れてはいけません。だから、軽はずみなことは、つつしむことにします。

最後のアンケートに移りましょう。

●アンケート 九

※理想的な先生のタイプについて

一、生徒の気持ちを理解して、何んでも相談にのって

たよりになる先生

二、授業中はきびしく、それ以外はやさしい先生

三、ひいきをしない先生

四、親しみやすい先生

など、出てきたようです。

先生がた、ガンパッテ生徒にこたえて下さい!

終わりに、筆者が感じたことをのべてさせていただきます。一通りアンケートを見て私たちが感じたのは、情性的な生活を送っていると言うことである。それは、アンケートを取ってみますと、白紙で返えされて来たのが多かった。その結果、調査人数があまりにも少なすぎたことです。

アンケートの中の、テレビ・ラジオ番組では、娯楽ものが多く好まれていますが、中学生の自分をしっかり把握し見きわめて、誠実に知性ある判断力を養ってほしいものである。日本人作家では好きも嫌いもなく両方に出てきている作家がいるが、これはあまりにもあいまいであると思う。他のアンケート。音楽・楽器・スポーツなどは、若者のエネルギーを満喫させるものがよく好まれているようです。

私たち（マスコミ部）独自の統計で、五稜中学校の生徒を、調べた結果、以上のことがわかりました。これは、ほんの一部ではありますが、現代の中学生の姿を、浮彫りにしたように感じました。

マスコミ部（石井・久保）



図書館だより

電波が活字をこえることはついにないだろう。負け惜しみでなく、そう言える。電波がその特徴を發揮するほど、活字のもつ上等な楽しさから遠ざかる。なぜなら活字の世界はその人の力にに応じていくらでも深みを増す世界だから。



◆入賞三編！

函館市立図書館第一分館主催の読書感想文コンクールに次の三人が入賞しました。

「最後の一片」

を読んで

一B 佐藤 隆夫

「若き親衛隊」

を読んで

二F 若松 朋子

「浦上の旅人たち」

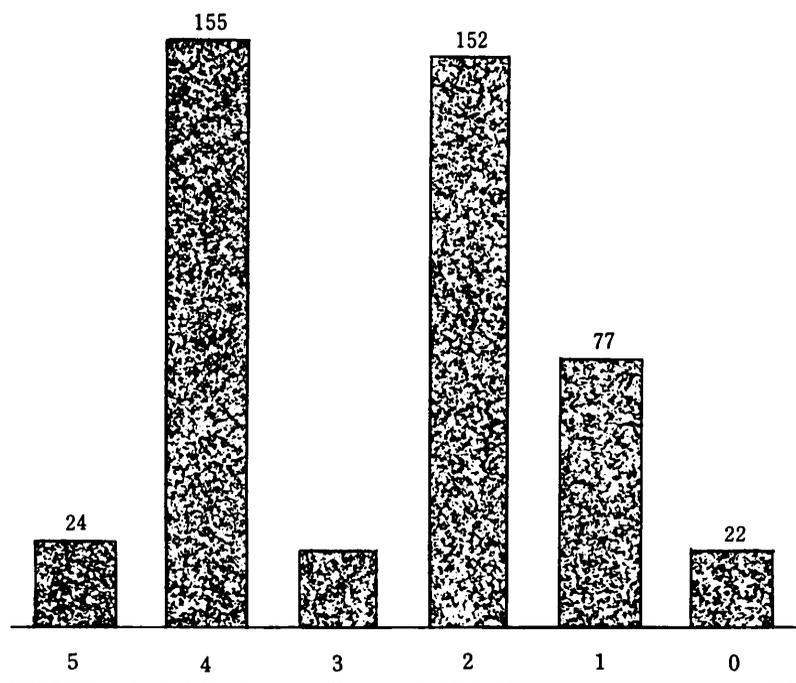
を読んで

三D 高村恵美子

中学校応募数三二編、うち入賞六編、

五校はその半数を占めました。

1. どんな本がどのくらい読まれたか。(貸出しのみ)



工
学

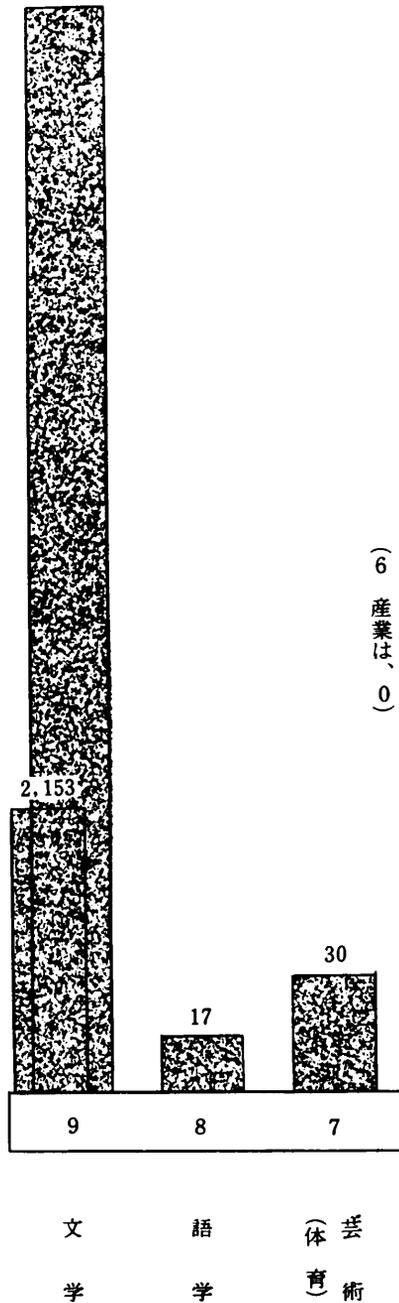
自
然
科
学

社
会
科
学

地
歴
理
史

宗
哲
教
学

総
記



(数字は冊数。十月末現在)

〈考察〉

○ なんとといっても、文学が多い。とにかく読み物を読みたいということになる。(一年——五四四冊、二年——一〇一一冊、三年——五六八冊で、二年生の読み物利用がとびぬけている。二年生が心身ともに変動期であることと関連があろう。)

○ 次に自然科学(理科)で、これは男生徒が多い。女生徒の読み物利用が、どちらかといえば、フィクションの世界で、自分の感情を解放するものとすれば、現象や真理に関心を持つのは男性らしい理性的な方向ともいえよう。

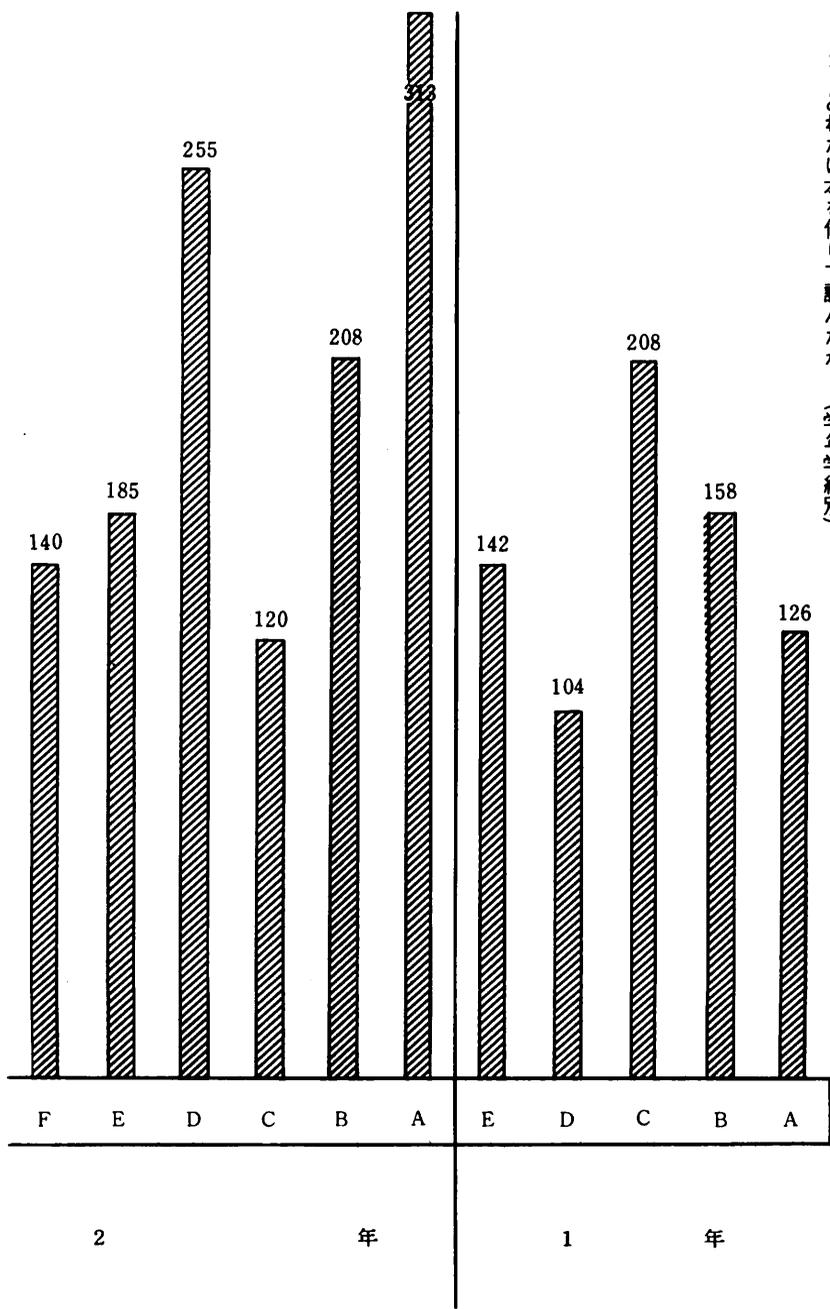
○ また、歴史・地理の利用が前者と同じくらいあるし、同様に男子の利用が多い。

○ 以上の、文学・自然科学・歴史・地理の本は他の分類の本に比べて、圧倒的に多い。文学書は総冊数の $\frac{1}{3}$ 近く、他の二者もそれぞれ $\frac{1}{4}$ に近い。

○ 眠っている本もかなりある。それは、古いからとか使いづらいからというばかりでなく、その本の値うちをよく知らないのである。係りとしては本の紹介を活発にしなければならぬ。

○ 来年はとにかく読み物をどしどし入れたい。それも、おもしろい本をたくさん買って、名実ともに親しまれる図書館にしていきたいものだ。

2、どれだけ本を借りて読んだか。(学年学級別)



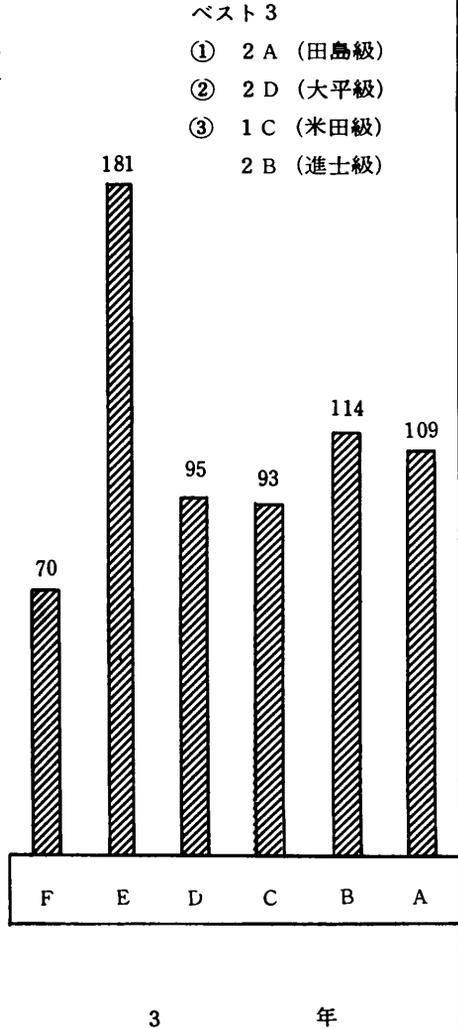
〈考 察〉

○ 二年生がいちばん読み、次に一年生、三年生の順。二年生のトップは毎年の例である。

○ 学級差が著しい。(個人差も著しい。) もっともっと学級でとくに読書のくふうができそうである。

○ 一年生あたりはにぎやかに本を読み、競争で借りる。だが、ほんとうに本をていねいに読んでいるだろうか。半年相当とはいえ、〈楽しみ読み〉に終わっていないか。三年生の読書家は

(数字は冊数。十月末現在)



成人とかわらない程度の高い本を読んでいる。が、その反面、読書をつつかり敬遠してしまう人たちもいて、両者がはっきりわかれていくようだ。

○ 利用率の高い学級に共通しているのは、必ず数名の読書家がいる、競争し、助け合いながら、楽しく本を読んでいることだ。みなもそれにつられるのだろう。「みんなが読んでいるから、たまに読んでみるかな。」というのと「読書だって？固い固い」という生徒との差が、グラフに歴然とあらわれている。

○ 学級（教科）担任の先生方もぜひ本を読んでもください。そして、おもしろかったこと、印象に残ったことをひとこと紹介してあげてください。それが、読書への誘い水になることはまちがいなしですから――。

3、読書と図書館をめぐる座談会より

質問「図書館の本について意見はありませんか。」

加藤「『アンネの日記』のような教科書に一部のついているものが単行本で何冊もそろっているように思います。そうすれば勉強の終わったあと、『では原典をよんでみましょう』ということができると思います。」

若松「文庫本のような手軽な本がほしいですね。今は旺文社文庫がありますが、推理小説のシリーズものなど文庫本でそろえたらぐっと親しみやすくなると思いますか。」

阿部「親しみやすい本が少ないんだなあ。小学校の五、六年生あたりによいものから、おとな向きの本にとんでいたり。何かぼくたちの年令にピッタリというものが少ないように思うんだけど。」

松村「詩集なんか、一冊しかないでしょ。もっとそろえてほしい。」
向井「やっぱり固い事が多いですね。学校の図書館ですから、それもわかるけど、もっとユーモアのあるものもほしいと思います。」

質問「図書館について注文は。」

加藤「わりに新しい事が多いんだけど、古い本など、題名がちよっとわかりにくい。」

白井「どこにどんな本があるか、一目でわかるといいんだけど。」

探すのも楽しみかもしれないけど、自分が読みたいと思ってるものをばっとみつけさっと読みたいわ。」

若松「土曜日はどうなっているんですか。」

（非公式ですが、いつでも開いています。御利用ください。）

松村「図書委員としては利用する人が限られているのが残念です。遊び半分の人もあるし……。もっと真剣にたくさんの方が利用してほしいです。」

加藤「私いつも思うんだけど、貸出しの時の混雑、なんかかならないかしら。人混みで思う本もさがせないの。」

阿部「貸出しの回数はどうなんです。もっとふやしてもいいよ。うですが。それから、週のはじめに貸出しを持ってこられないでしょうか。そのほうが、ぼくは利用しやすいなあ。」

松村「来年はもっとよい本をたくさんそろえたいと思っています。よい本がそろえば、人も集まってきて、利用率も高まるだろうし。今図書館には三千冊以上の本がありますが、中にはほとんど利用されないでいる事もあります。私たちも紹介しますが、みなさんもっと本を利用してください。」

文芸

人間は二者択一のポイントに立たされた時
いつでも安全な道をとリたがる。危険と見て
本能的に身を引くのは誰でも持っている処世
術だ。と同時に弱みだ。人は自分が賢明に処
したと考える。しかし、実は巧みなごまかし
である場合が多い。ごまかしは人生に何の結
果をもたらさない。そこで、私は徹底的にマ
イナスに賭けることにした。すると、身体中
にファイブが充ちてくるから不思議だ。絶体
的な生きがいである。逆説的なようだが、こ
れは私の信念であり、生き方キラスジでもある。

——創作ノートより——

《力を盡して狭き門より入れ。滅びに至る門
は廣く、之より入る者おほし。生命に至る門
は狭く、その路は細く、之を見出す者すくな
し。》
アンデルセン、ジイド（狭き門）

詩 三年

体操

稲垣 恵

ジャンプ ステップ バランス 回転
女子体操の花形 床運動

ピアノのリズムに合わせて
次から次へとそろそろやかに動きだす

演技をしているあいだ
何を考えているのか……
ただ無心からだを動かす

今までの練習の成果を
ほんの二、三分でつくってしまっ
もったいないような
うれしいような感じがしてくる

白い大きな羽をもったちようのように
そろそろやかに

へそまがり

中村 武夫

かた苦しいことをするより
のんびりしているほうが
そうだとも

その方がずっといい

難しいことをするより

簡単なことのほうが

そりやそうさ

誰だっけそうさ

よけいなことを口出しするより

黙っているほうが

その方が安全だ

でも、

そうしたくない奴もいる

それは

へそまがりさ

マツチ箱

高村恵美子

なんてむし暑いんだ

このマツチ箱は

なんて静かなんだ

この中は

先生の声が

遠くでかすかに響く

ここの世界に

生き物は先生だけ

黒い服を着ている

あれはマツチ様さ

廊下はわれらの天国

別世界への抜け道

あそこにあるのは……

ああ

あと10秒で

マツチ箱は

爆発さ

星

目黒ひとみ

太陽がさよならしたあと
空にはピロイドのスクリーン

神さまが幻燈をはじめよ
空気の精たち集まっておいで

スクリーンは

だんだんにぎやかになっていきます

真珠いろの星

すみれいろの星

紅いろの星

鳥もいます

動物もいます

女の子もいます

空気の精たちは

勝手に星をつないで

自分だけの夢をつくります

スクリーンはゆっくりゆっくり

回って行きます

さあ もうおしまいよ

空気の精たち

早くお帰りまたあしたね

大空のスクリーンは

だんだんうすれていきました

おまえは毛虫

岡田 好美

ソロバン道路のまん中に

むっくりおまえが歩いてる

悲鳴が出ないよ なぜか今日は

いつみても気持ちが悪いや おまえは

ヘアークリームもつけないくせに

ピカピカ光っている

私の髪とはまるで反対だ

「こいつめ なんてそんないいものを」

と思っているうちにほごりが立って真白け

「はははは」いい気味だ

でも、おまえも生き物

早く家に帰って洗たくしておいで

ごみとまちがえられるじやないの

放課後

風間 俊一

放課の

“別れの曲”のメロディが

雪に湿った空気をふるわせ

校舎の中へ

校舎のすみずみへ
しみこんでいく

雪は

音もなく降っている

窓ぎわに

スート来ては消えていく

音楽は

静かに止んだ

祭り

熊谷 竜男

今夜は

亀田八幡宮の本祭だ

夜店が

そう思ってた家を出た

境内の踊り場は

人・人・人の群れだ

舞台では手品師があやしげな手つきで

体をくねらせている

そして 時折

強烈なロックが鳴り響く

くだもの

わたあめ

おでん

たこ焼き屋

いろんな店がところ狭しと並んでいる

ホット ドック屋の前で

「これいくら」

と聞いたら

「二〇〇円」といった

金魚すくいも

おもちゃ屋もみんな値上りだ

一ふくろ五〇円の花火を買って

小便しに小路へ出たら

月が明るく照っていた

飛行機

中谷 雅俊

ばんだい号に続いて

また 飛行機が墜落した

ニュースを伝えるアナウンサーの声もふるえている

「旅客機は正規のコースを

そのコースに自衛隊の訓練機が突っこんだ」

という

家族の人は大声で叫んでいる

「なぜ、こんなことが二度までも……。」

怒りと、悲しみに充ちた顔が大きくクローズ

アップされた

ぼくは憎む

自衛隊を

いや、政府を

憲法には「陸海空軍その他の戦力はこれを保

持しない」

とあるのに、国防費は年々増額されるという

戦争がどんなに悲惨なものか

大人の人は知っているはずだ

戦争の仲裁のできる

勇気のある人間だって日本にはいる

それは 自民党以外の国民だ

朝

菊地多希子

母さんが

「……行ってくるよ」

と言って家を出た

雨上りの縁側からみていると

背を丸めて

にっこり笑った



朝の仕事

滝下 貢

目ざましのベルで

目がさめた

牛乳 はいたつだ

つめたく おもい牛乳をくばらなければなら

ない おもい

いやになる時もある

でもぼくがいかなければ

だれもはいたつしない

おはよう

ごころうさん

これがぼくを はげましてくれる

だから

ぼくは

やりがいを感ずる

漁師のおじさんと魚

秋山 鷲

朝早く

漁船の入る港へ行つた

漁師のおじさん達が

漁船から魚を降ろしていた

その姿は

ゴムのズボンのようなものを穿き

頭には 鉢巻きを巻いて

いかにも 見穿らしい

しかし その姿をじっと見ていると

漁師のおじさん達の苦勞や

魚の価値というものが

しみじみ分つてきた

その時

「おい そのチビ 魚少しやるから

もつてけ」と、漁師のおじさんが

サバやホッケを 四―五匹くれた

ぼくは大喜びで

まるで宝石のように魚を

もつて帰つた

日々

田辺 康一

自分の今までのことを

ふり返つてみる

自分が行なつたことで

完全なものは

なにひとつ

ないような気がする

なにひとつ

後に残るようなことをやつてない気がする

それが

何となくさびしく

いてもたつてもいられなくなる

何かやらなくては

そんな気持ち心がをかきたてる

でも何もできない

今この時を

いっしょうけんめいやればよいと

そう自分に言い聞かせたりして

また一日が過ぎる

時間

平野 恵子

時間を利用する

そうだろうか
私たちが時間に動かされているのでは……
何をするのでも時間を気にする

時間 時間 時間

朝の登校

寒くて来るのがいやになる

でも八時半までに

「ジー」

と耳に大きく響く

いつもながらなやまされる

時間がにくなつてしまふ

とめられるものなら

まっさきにとめてしまふのに

でもそれはむだな事

授業が終わるのも きめられた時間があつて

こそ

時間 時間

やっぱり聞きあきるほど聞いていることは

私たちの生活とはきつてもきれないえんにあ

る

時間 時間

自分

那須野あけみ

あの水平線の向こうには

何があるのかしら？

昔の人は そう考えました

今 私も そう考えます

このせまい日本の国にいるかぎり

私は考えるのです

なぜ 荒くるう波をのりこえて

水平線の向こうに行かなければいけないの？

私は 苦しい思いをしてまで

向こうには行きたくないのです

いったい何んのために行くのでしょうか

だれが そう決めたのでしょうか

今の私は ま暗な草原の中をのぞいているよ
うな気持ちなの

私の心の中は ちょっとびりだけうれしくて

あとの大部分は 悲しさと不安さがいりみだ

れているの

自分でもあせっていることがわかるわ

でも、そういう自分を

どうすることもできないのです

「花と心」

奥村 幸恵

花には心が あるのだろうか

あのきれいに 咲きほこっている花に……

私にはわからない

花の心とは 又 人の心とは

私達の心とはなんだろう……

全然わからない

あることばで 傷つけ

ある行動で悲しませていた私

あのままの私だったら 花と同じだっただろ

う

でも 人の心が 友達の心が

私を救ってくれた

花には 友達の心がある？

いいえ きつくないでしょう

人の心は 人の心

花の心は 花の心

でも 人と花は結びついているでしょう

ほらよく考えてごらんなさい

あの小さい子供たちが

大人になる前のかわいい子供たちが

花と 楽しそうに お話している姿が

目につきませんか

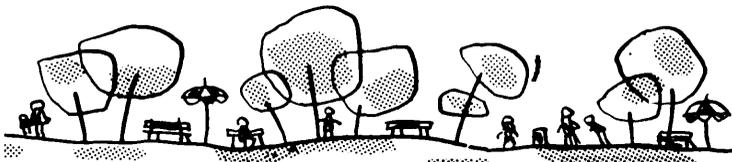
私もそしてみんなも

ああいうところがあつたでしょう

花と人との心は やはり結びついています

でも 大人の心とは 花の心とは

今の私の心そして私達の心とは
やはり わからない



有珠山頂へ向うゴンドラ



修学旅行

師と語る

交友を深める

郷土を見つめる

集団生活を身につける



展望台から見た洞爺湖

今年からコースが変わった。何か物足りない感じもした。でも、三泊四日の旅は、私たちにいろいろな体験を与えてくれた。友との語らい、自然のたたずまい、激動する社会を身近かに感じたさまざまなことが明日への心の糧となろう。



天然記念物昭和新山

1971年6月8日～11日

昭和46年度 修学旅行日程表

時刻	コース及び時刻										備考			
6月8日	6:30	9:00	10:40	11:00	12:30	13:30	13:40	14:40	15:00	16:00	16:20	17:30	22:00	宿泊地 湖沼湖畔 ホテル 湖 沢 (01427- 5-2451) サマーランドは翌日 の天候等により決定
(大)	校庭集合	出発	八雲着	八雲発	湖沼湖畔着	湖沼発	中島着	中島発	湖沼着	湖沼発	ホテル着	夕食	消灯	
			(ドライブイン)にて休憩		(ドライブイン)で昼食			森林博物館見学	(探訪)			総浴 ゲーム サマーランド(希望者)		

アキオの日記

さあ、修学旅行。ぼくはさっそうとバスにのり込んだ。そして、一瞬ハットした。あまりにもガイドさんが美しかったからだ。名前はサトコちゃん。サトコちゃん。そのサトコちゃんが教えてくれた歌。

心にもえてひとすじに

のせてはるばるバスは行く

空にそびえる山の峰

丘に見えるは青い海

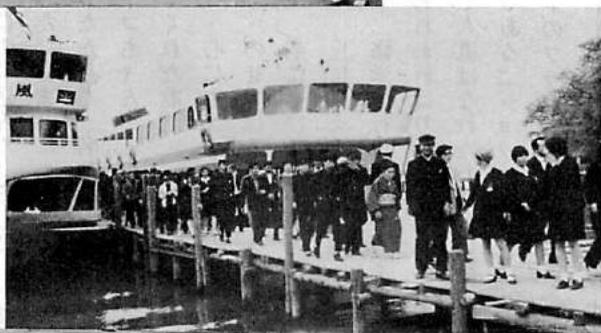
修学旅行は楽しいなあ

われわれはりっぱなホテルをす通りして人里はなれたわびしい宿に着いたのである。(シヨック)でも、サマーランドのフラダンスは楽しかった。





気をつけるんだヨノ



ヤレヤレ。



汽車なら良かった?



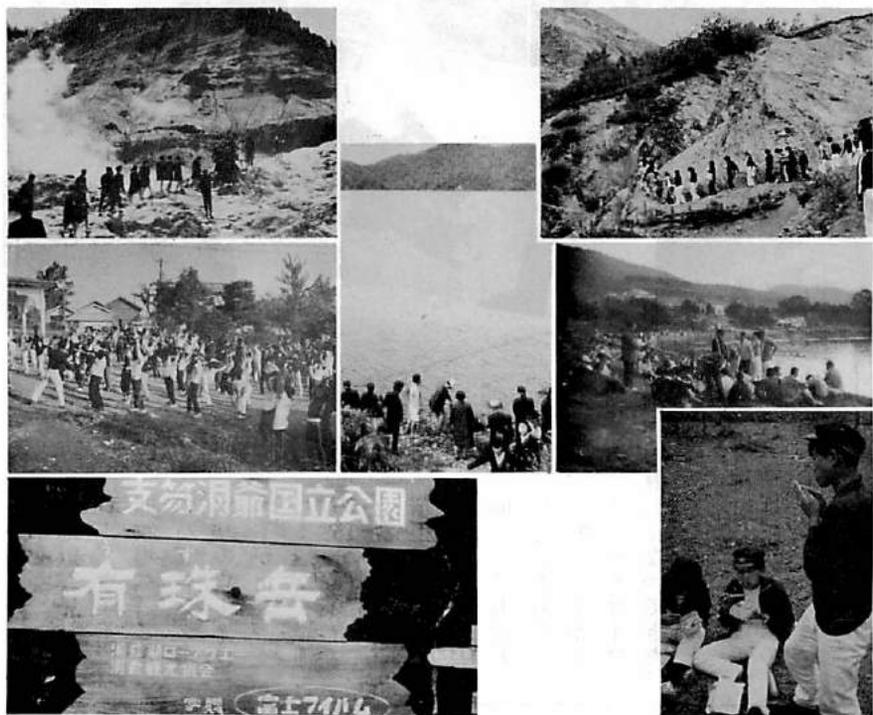
あこがれのサトコちゃん。

時刻	コース	及び	時刻	備考
6:00	全員起床		16:00	ホテル着
7:30	朝食		17:30	夕食
8:30	ホテル出発		19:00	キャンプファイヤー フォークダンス 合
9:00	有珠山登山口着		20:00	酒
9:30	山頂着 ロープウェイ		22:00	灯
13:00	山頂発			
13:30	登山口着 ロープウェイ	昭和新聞 探検、写真 (真撮影)		
15:30	昭和新聞発			

宿营地 洞爺湖畔
観光館
(01427-5-2649)
雨天時は集会所、サマランド等を計画。

6月9日 (水)

アーサ。体操ときた。ごはんを無理につつ込む。うす岳への登山があるため。探勝は無事にすみ、途中にあった草花を見てガラにもなくオセンチになる。その愛らしさに心をうばわれて……。午後、バレーボールの試合のためスポーツセンターへ。サトコちゃんが応援してくれた。力はいった。そのせいかどうか解らないが、夕食は椅子つきの別室であった。カエルの鳴き声がうるさいのでつかまえてクツテやった。まだうるさいのでヘソをとってやった。



月日	コース及び時刻										備考
6月10日 (水)	6:00 全日起床	7:30 朝食	8:30 ホテル出発	9:30 オロフレ峠 (休憩)	11:00 地獄谷着 (写真撮影)	13:00 四方湖着 ロープウェイ	14:30 四方湖見 (探訪)	15:30 ホテル着 ロープウェイ	18:00 夕食 体入	22:00 消灯 入浴	宿泊地 登別 臨海観光ホテル (014487-2323) 水泳は気温、天候、疲労の状態等により決定。

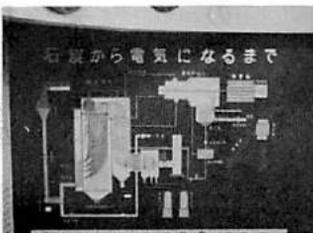


地獄谷見学後
ロープウェイで
熊牧場へ。ここ
でハブニング宙
ゾリのロープウ
エイが止まって
しまった。恐怖
の15分間後やっ
と動きだし無事
頂上へたどりつ
く。熊はぼくと
同じとてもかわ
いくいぢらしい。
でも、心配なことがま
た起きた。そろそろサイフ
の中味が淋しくなってきた。
少しせつ約をしなくてはと
重大決心をしてぼくは寢床
についた。はだかでぼくの
寝顔みて——。

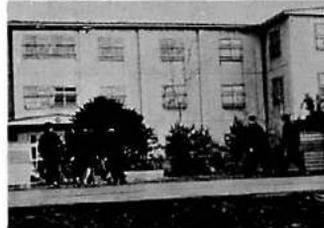
日	コ ー ス 及 び 時 刻										備 考	
6月11日 (全)	6:00 全員起床	7:00 朝食	8:00 ホテル出発	9:00 宝蔵着 (科学館 測候山)	11:00 宝蔵発	12:00 伊達開拓記念館着	12:30 記念館発	13:30 洞路 (休憩)	15:00 八雲 (休憩)	17:00 校庭着	17:30 解散	昼食は天候により場所、時刻を決定

われわれは旅行中一番まともなホテルを後にし科学館へ向かった。お星様をみたおかげで首がいたくなった。巨人エレクトーンと凹凸鏡はゆかいだった。ああ、もうサトコちゃんともお別れだ。その思うとかなしくなってきた。

はるか前方になつかしい五稜中が見えてきました。楽しかった日々の思い出よ。さようなら さようなら また逢う日まで。



これがナケリヤ……



卒業—あすへの歩み

三年間生活してきた中学校ともお別れだ。

青春の前期と呼ばれるこの歳月に何があ

ったか。今、わたしたちはそれをふり返

る。そして、目の前に広がる未来を思い

描き考える。

新しい世界に踏みこむ時、その一步は常

に不安と期待に揺れ動く。

今一度、自分の立場をみつめよう。



三年の先生方



3年D組 滝村先生



3年A組 岡本先生



3年E組 佐々木先生



3年B組 桑川先生



3年F組 門脇先生



3年C組 金崎先生

祇園精舎の鐘の声
諸行無常の響あり……。



国語 保坂先生

竹の中から見出された姫が美しく
成長しました。
お料理が上手だったの……。



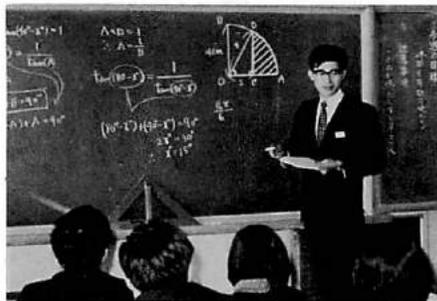
家庭科 成田先生

$\sin x = \frac{1}{2}$ のとき、 $\cos x$ は？
ハイ、萌子ちゃん。

数学 斎藤先生

またお腹？食べすぎじゃナイ
太りますヨ。

養護 山田先生



岡本 守

健康とは！！

。身体的にも

。精神的にも

。社会的にも

完全に

良好な状態をいう。

三年A組

青木 和彦

青野 直一

池田 洋

稲場 久人

伊原 広志

景山 耕吉

笠原 久生

上ノ山雄平

工藤 慶裕

後田賢津夫

小玉 豊

沢井 順一

沢田 慶一

高村 正彦

田島 聡

館山 豊

田中 寛治

中村 広司

星 雅次

宮松 隆

村上 英樹

吉田 則幸

溝口 勝博

石原 礼子

岩橋英利子

桶田 幸子

金森喜久子

工藤智佳子

佐々木孝子

佐竹 信子

庄内 順子

高萩 智子

高村 一枝

堂山 雅代

永野 康子

中村 香

根田千恵子

原 弘子

船水 容子

松野 智美

吉田 洋子

三年B組

桑川俊郎

若者よ、くよくよするな

若者よ、失敗をおそれるな

若者よ、

男の中の男に

女の中の女になれ、

若者よ、

大海原のように

深く、静かに、

人生の幸福を求めよ、

会田 聡

荒木 知彦

石岡 雅広

石川 淳一

大須田 裕

大平 正則

岡田 勝彦

岡田 司

表 秀樹

笠原 正勝

金ヶ崎嘉知彦

川村 孝

菊地 修也

小島 寿夫

小林 道夫

佐々木直樹

滝下 栄次

鳴海 裕

日角 賢一

福士 正

横川 透

横浜 雄二

青木美智子

安倍 美幸

伊藤比呂美

岩館真祐美

笠置美智子

加藤 道子

郷久由美子

合田優美子

小谷 朋子

今野 郁子

三野よし子

立木 路子

千葉 裕子

水本 由美

森 明美

田井 京子

徳田ひとみ

森川美紀子

卒業おめでとう
 “情熱” この言葉忘れないうでほしい
 私は情熱を失った人は
 空蝉にしか思えない
 五年後十年後……
 情熱にもえ尽 若者に会える人だ!!
 金崎 紘一

三年C組

伊藤 幸尚
 岩崎 透
 大友 隆
 風間 俊一
 国立 幸男
 熊谷竜男
 熊谷 敏夫
 小林 裕嗣
 笹森 光彦
 佐門 哲也
 清水 利秋
 高橋 尚人
 外崎 峰広
 浜地 尚史
 広瀬 郁朗
 筆村 由則
 本根 信彦
 本間 浩平
 増田 修一

森 伸幸
 山形 恭生
 溝口 敏彦
 相田真由美
 板垣 武子
 井端 裕子
 岩崎真里子
 長内 純子
 佐藤 陽子
 菅谷 常子
 滝沢 敬子
 辻崎 智子
 仁科 淑子
 野呂 あや
 松岡 緑
 三本恵里子
 矢口由美子
 山岸由美子
 渡辺ひろみ

卒業おめでとう

滝村浩平

みなさんは三年間の学校生活でいろいろなことがあったと思います。楽しかったこと、苦しかったこと、ともに笑い、ともに泣きたくさんの思い出を残したでしょう。卒業してから、も友だちと結ばれた絆を大切にしたいものです。

私はいつも「長い人生の中で正直者は損をする」とうことは絶対にならぬ」と確信している。

生徒諸君、つねに誠実であれ

三年D組

石垣 修

小川 浩

木村 政行

栗沢定佳

斉藤 正樹

酒井 秀昭

香川 正弘

高橋 達夫

田島 晋

田畑俊久

田原 秀浩

仲保 正彦

中谷雅俊

野田 欣一

花摘 信孝

永見 義晴

平沼 晃

平野 周二

山形 宗司

米坂 博克

横山 雅彦

池端 桜子

伊藤 哲子

大沢 孝子

大塚智恵子

岡田 好美

加藤 昌子

金子 寿子

菊地 栄子

菊池多希子

斉藤 弘美

佐藤 千晶

柴田かおる

高村恵美子

田原 文代

手塚真佐子

星 七重

堀 雅子

恰々不雄寺

我々の人生は 遣伝と意志と
偶然と妥協の結晶に於て

だから自分の人生を喜ぶ

悲しむのは可能であるが

他人の人生を去々する事は

できない。

三年E組

加藤 憲彦

鎌田 工

菊地 正光

木村 賢司

小池 憲明

国分真紀雄

篠崎 哲哉

杉本 卓也

鈴木 剛

瀬川 勝人

高瀬 典幸

高谷 直広

田中 康孝

田山 博幸

筒井 信匡

中村 武文

浜野 剛

藤巻 稔

松本 選之

山口伸一

横山 淳

稲垣 恵

猪股久美子

大森 愛子

川野 泰子

佐々木秀子

佐藤喜美子

佐藤由美子

主藤 秀子

住吉由美子

鈴木 恵

照井寿子

堂脇 博子

根城由紀子

日向 真里

藤井 千香

三浦 順子

目黒ひとみ

山本千枝子

門脇初代

人生には往復切符は発行
されて、ないと人は言う。

片道の切符をどう使うかは個人個人の
自由だ。

真理を追求し、苦しみかうことは
最も普通のことだ。自ら普通と
することは、ほんのわずかの派ほど
なのだ。だが人はそれだけの人生
列車にどっかりと腰をすえて前進
する。我々の祖先と同じように

(矢われたときは決してとりもどせない)
ラスモン

三年F組

井川 泰宏	石井 辰男	伊藤 恭司	犬井 幹夫	鶴川 快	沖本 正次	掛端 俊一	加藤 清治	木村 雅彦	木村 正裕	久保 等	小西 晃	新谷 隆俊	須田 誠	中尾 礼二	中川 雅文	羽田 信之	原田 康久	藤田 利生	松井 洋
山村 周二	吉田 強	池田こずえ	石橋真理子	伊藤 桂子	稲生 雅子	大滝 泉	梅津 留美	影井ひろみ	坂 祐子	佐々木千夜	笹原恵美子	佐藤 恵子	下山 葉子	高橋 富子	田代 君恵	中村 雪子	星加 裕子	永田 潮	阪本 和子

成田恭子

「東京のじゃがいもはまずいよ。函館のはおいしいね。」じゃがいも好きな東京の友人が嘆いて言います。同じ種をまいても気候・風土・肥料などのちがいで同じに育たないらしいのと同じ年代に生を受けた皆さんも、各々の十五年の時の刻みの間に、個々ちがった味わいの人に成長しましたね。

まずいじゃがいもは

料理のしかたでおいしく食べられます。

おいしいじゃがいもも

料理のしかたが悪ければまずくなります。

おいしいは、味つけでままるの。

やつと個のじゃがいもの形になた皆さん

本当の本当の味つけは、

これから、自分自身の方でしていくのです。

人間の一生は、現実とはしばしば矛盾を伴いだすけれどこの相剋を経て日々何を発見し、生産していくかというところでその人の一生は決するのでしょーね。

生きることに哲学において何が必要とされるかに波及した所々の命題に沈思すること重大切かと思ひます。

ニホカドクあたり次第に読む書物の中から、自分が自己トスチエーシヨも明確になることを願っています。

保坂武道

ご卒業おめでとう

ございます

健康第一

体と共にたくましく生きる
心の健康を養ってください。
生きることには心から幸福と
感謝の心を持って障害を
のり切っていく健康な人間
になることを祈っております。

山田 孝子

雨が降り 風が吹く
でも 何が真実かを

知りつくしているように
山は雄大にそびえる。

今君は 青春のドラマを
胸一杯に秘め

光に向かって歩いていく。
冷たい雨

はげしくゆさぶる風に耐えて。
いつか振り向いてくれた時

その姿は
さらに大きく見えるだろう。

斎藤 正宏

編集後記

鶴川―終った。大成功だ。今満足でいっぱいだ。

佐々木―一三二ページ。しんどいや。腹へったなあ……。

大滝―やっぱりお嫁に行く時持っていこう……。

木村―俺達の雑誌、十周年です。お菓子食べたなあ……先生のふと

ころ、さぞさびしからう……。

白井―あつという間に終わっちゃったわ、私だけかしら。

横山―いい雑誌、いい感じ。なせばなるこの本を見ておくんない

ませ。

目黒―受験勉強に投入せず、五稜のためについやした。失敗し

てもくいなしだわ……。

編集長の弁

保坂先生

本号は創立十周年を記念し刊行しました。十年の歩みの中から明日に資する何ものかを得たいという意図は充分とは言えないしろ、誌面の至るところに横溢していると思うのは編集人の大著でしょうか。

十年の礎石に立ち、ひとりひとりの子どもが豊かに成長すると共に、本校の教育がその進歩の足どりを着実に、未来の可能性に向って刻んでいくことを願い、雇われ編集長の退任の弁とします。みなさんのご協力に多謝。ああ、つかれました。さようなら。





表紙の構成と

そのことば

三年 中村 香

激しく燃えあがる

炎の中で躍動する

若者たち

写真と寸感

齋藤先生



印画紙を浮かべ揺らぐ現像液
赤い光に照らされ

うっすらと現われる像

一瞬悩み 悲しみ

そして笑った世界に呼びもとされる

知的で 心情的で

献身的な結びつきを作ってくれた時

愛する小さな友達と

綴った「心の日記」

一枚の小さな写真は

鮮やかに蘇らせてくれる

〔五 稜〕

第11号

昭和四十七年三月 十日 印刷

昭和四十七年三月十五日 発行

編集 函館市立五稜中学校

電話四一—三四五八番

発行 五稜中学校生徒会

印刷 ぼうに印刷

電話代五一—九二〇七番

(非売品)



祝創立十周年